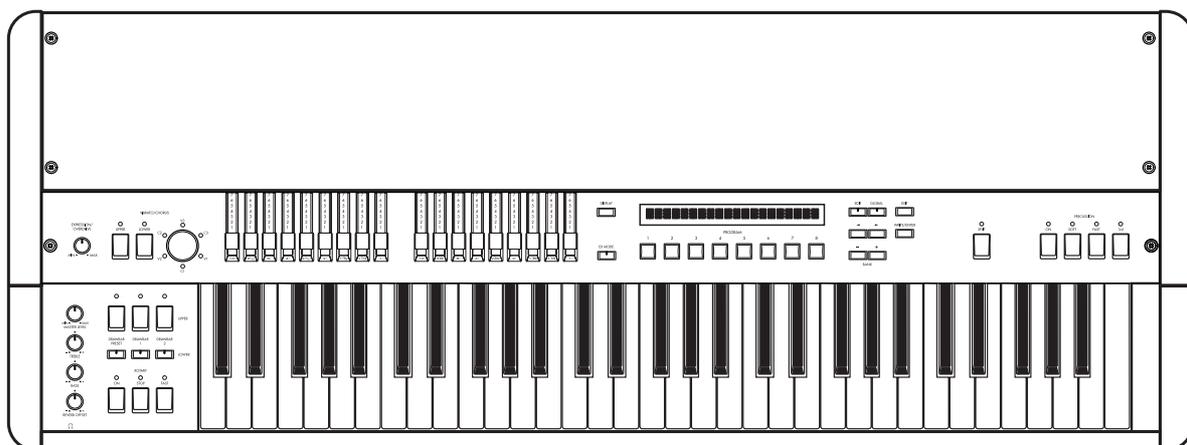


CX-3

COMBO ORGAN

取扱説明書



KORG

安全上のご注意

ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。

注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

マークについて

製品には下記のマークが表示されています。

WARNING:

TO REDUCE THE RISK OF FIRE OR ELECTRIC SHOCK DO NOT EXPOSE THIS PRODUCT TO RAIN OR MOISTURE.



マークには次のような意味があります。



このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。



このマークは注意喚起シンボルであり、取扱説明書などに一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには

図記号の例

	△記号は、注意(危険、警告を含む)を示しています。記号の中には、具体的注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⊘記号は、禁止してはいけないことを示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「分解禁止」を表しています。
	●記号は、強制(必ず行うこと)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

以下の指示を守ってください

警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が予想されます



- 電源プラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込む。
- 電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。感電やショート恐れがあります。
- 本製品はコンセントの近くに設置し、電源プラグへ容易に手が届くようにする。



- 次のような場合には、直ちに電源を切って電源プラグをコンセントから抜く。

電源コードやプラグが破損したとき

異物が内部に入ったとき

製品に異常や故障が生じたとき

修理が必要なときは、お買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターへ修理を依頼してください。



- 本製品を分解したり改造したりしない。



- 修理/部品の交換などで、取扱説明書に書かれている以外のことは絶対にしない。

- 電源コードを無理に曲げたり発熱する機器に近づけない。また、電源コードの上に重いものを乗せない。

電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。

- 大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。

- 本製品に異物(燃えやすいもの、硬貨、針金など)を入れない。

- 温度が極端に高い場所(直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など)で使用や保管はしない。

- 振動の多い場所で使用や保管はしない。

- ホコリの多い場所で使用や保管はしない。



- 風呂場、シャワー室で使用や保管はしない。



- 雨天時の野外など湿気の多い場所で、使用や保管はしない。

- 本製品の上に液体の入ったもの(水や薬品等)を置かない。

- 本製品に液体をこぼさない。



- 濡れた手で本製品を使用しない。

注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物理的損害が発生する可能性があります



- 正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。
- ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。
- 外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。
- 電源コードをコンセントから抜き差しするときは、必ず電源プラグを持つ。



- 長時間使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜く。



- 他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしな。本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。

- ・スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。
故障の原因になります。
- ・外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーは使用しない。
- ・不安定な場所に置かない。
本製品が転倒してお客様がけがをしたり本製品が故障する恐れがあります。
- ・本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。
本製品が損傷したりお客様がけがをする原因となります。
- ・地震時は本製品に近づかない。
- ・本製品に前後方向から無理な力を加えない。
本製品が転倒する危険性があります。

データについて

操作ミス等により万一異常な動作をしたときに、メモリー内容が消えてしまうことがありますので、大切なデータは外部のMIDIファイラー等にセーブしておいてください。またデータの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

- * MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- * 掲載されている会社名、製品名、規格名などは、それぞれ各社の商標または登録商標です。

このたびはコルグCX-3コンボ・オルガンをお買上いただきまして、誠にありがとうございます。本製品を末永くご愛用いただくためにも、この取扱説明書をよくお読みになって正しい方法でご使用ください。

取扱説明書について

取扱説明書の構成と使用方法

まず本誌をよく読み、操作する上で必要な事柄や基本的な操作などを覚えてください。

「はじめに」は、各部の名称とはたらき、接続方法について説明しています。

「クイック・スタート」は、デモ演奏の方法や簡単な操作を説明しています。

「基本操作」は、演奏するための基本的な操作方法等を説明しています。

「パラメータについて」は、パラメータの動作や設定方法、設定時の留意点等を、モードごとに説明しています。わからないパラメータが表示されたときや、機能についてさらに知りたいときにご覧ください。

「付録」は、MIDIシーケンサやコンピュータ等の接続時に必要な設定方法、データ・ダンプの方法、CX-3に内蔵されている音色リスト、仕様等が表記されています。

取扱説明書の表記

キーやツマミ類の表記...[]

CX-3のフロント・パネル上のキーやツマミ類は、[]で囲んで表しています。

パラメータの表記

ディスプレイに表示されるパラメータは、“ ”で囲んで表しています。

p.

参照するページを表しています。



使用上の注意を表しています。

tips

ちょっとしたヒントまたは応用等を表しています。

ディスプレイ表示

取扱説明書に記載されている各種のパラメータの数値、プログラム名等は、表示の一例ですので、本体のディスプレイの表示と必ずしも一致しない場合があります。

MIDIに関する表記

CC#はControl Change Number(コントロール・チェンジ・ナンバー)を略して表しています。

MIDIメッセージに関する[]内の数字は、すべて16進数で表しています。

目次

はじめに	5	ビブラートとコーラス	20
1. CX-3について	5	オーバー・ドライブ	20
主な特長	5	7. データの保存	20
モードについて	5	本体へのライト	20
2. 各部の名称とはたらき	6	プログラムのライト	20
フロント・パネル	6	Globalパラメータのライト	21
リア・パネル	9	MIDIデータ・ダンプ	21
接 続	10	8. エディット	21
1. 電源コードの接続	10	音色のエディット	21
2. OUTPUT端子との接続	10	他のパラメータについて	22
3. ペダルの接続	10	ドローバー・パラメータのエディット	22
4. MIDI機器との接続	10	Normalモード	22
		EXモード	22
		ドローバー・パラメータのコピー	22
		プログラムのコピー	23
		プログラムのスワップ	23
		プログラム名の変更	24
クイック・スタート	11	パラメータについて	25
1. デモ演奏を聴こう	11	1. Normal Editモード/EX Editモード	25
2. Normalモード	11	2. Globalモード	31
プログラムの選び方	11		
演奏しよう	11		
ドローバー・パラメータの設定で演奏しよう	11		
Drawbar 1と2を使って演奏しよう	12		
3. EXモード	13		
プログラムの選び方	13		
演奏しよう	13		
ドローバー・パラメータの設定で演奏しよう	13		
Drawbar 1と2を使って演奏しよう	13		
4. スプリット機能	14		
		付録	37
		1. ドローバーのはたらき	37
		2. MIDIアプリケーション	37
		MIDIについて	37
		外部MIDIシーケンサーやコンピュータ等の接続	37
		MIDIデータ・ダンプ	38
		送信	38
		受信	39
		MIDIメッセージについて	39
		プログラム/バンクを変える	40
		3. ボイスネーム・リスト	42
		Normalモード	42
		EXモード	42
		デモ曲	42
		4. 故障とお思いになる前に	43
		5. エクスプレッション・ペダル(付属)の機能	44
		フォルテシモ機能	44
		ペダル角度切り替え機能	44
		ペダル角度の変え方	44
		ケーブルの収納	44
		6. 仕様とオプション	45
		7. MIDIインプリメンテーション・チャート	46
基本操作	15	索引	47
1. ディスプレイの表示	15		
表示の切り替え	15		
Normalモード	15		
EXモード	15		
Normal Editモード/EX Editモード	15		
Globalモード	16		
ドローバー・レベルとアイコン	16		
ショートカット	16		
2. プログラムについて	17		
プログラムの構成	17		
3. 工場出荷時のプログラムに戻す	17		
1 プログラムの初期化	17		
すべてのプログラムの初期化	17		
Globalパラメータの初期化	18		
プログラムとGlobalパラメータの初期化	18		
4. パーカッション機能	18		
Normalモード	18		
“ DB Preset 's Perc ”パラメータの確認	18		
EXモード	19		
Drawbar 2のEX Percussion	19		
5. ロータリー・スピーカー	19		
6. エフェクト	20		
リバーブ	20		

はじめに

1. CX-3 について

主な特長

CX-3 コンポ・オルガンは、トーンホイール・オルガン・モデリング音源を搭載し、トーンホイール・オルガンの独特なサウンドを実現しました。

ロータリーそしてコーラス/ビブラート、リバーブ等の空間系に **REMS** を採用し、コンポ・オルガンならではのエフェクトをより忠実に再現しました。ロータリー・スピーカーのローターとホーンの回転から生まれる音のうねり、ナチュラルなオーバードライブ、臨場感を生み出すコーラス/ビブラートなどにより、CX-3 だけで本格的なオルガン・サウンドが楽しめます。

フロント・パネルにある2セットのドロワーを操作することによって、演奏時でもリアルタイムに音色を変えることができます。このドロワーを、Normalモード時は1セット、EXモード時は2セット使って音色を作ります。EXモードではパーカッションをドロワーでコントロールでき、今までにない新たな音色が得られます。

通常の鍵盤は、最後まで押さないと発音されませんが、CX-3は鍵盤を軽く押しただけで発音します。これによって素早い発音を得られ、グリッサンド、トリル等の奏法を確実なものにできます。

CX-3では、鍵盤を弾いたときに「カツツ」というオルガン特有のパーカッシブな演奏が行えます。そして、鍵盤を弾いたとき、鍵盤から離れたときにキー・クリックが得られるように設定ができ、それによってオルガンならではのアタック感が得られます。

プログラムを128(Normalモード: 64、EXモード: 64)内蔵し、様々なオルガン・サウンドが楽しめます。

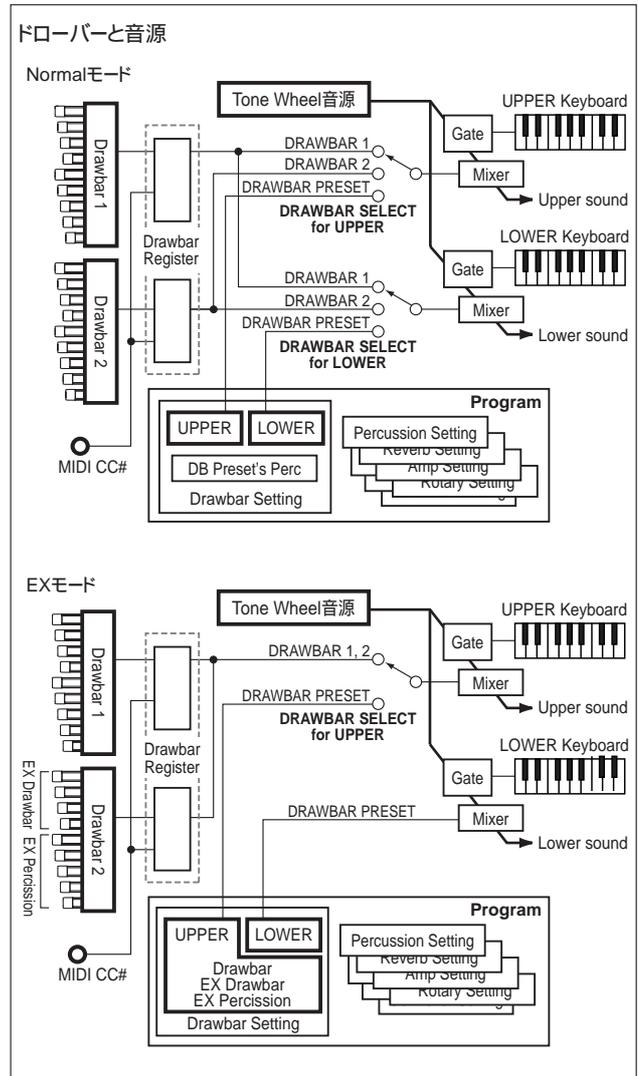
CX-3は、仮想的にアッパーとロアの2つの鍵盤を備えています。本機の実際の鍵盤は、アッパー鍵盤として動作しますが、スプリット機能によって任意の位置で、アッパー鍵盤とロア鍵盤に分割することができます。また、それぞれの鍵盤には個別のMIDIチャンネルを割り当てることができますので、鍵盤付きのMIDI機器をロア鍵盤用として接続することができます。

CX-3の音色を作り出すドロワーは、フロント・パネル上の Drawbar 1 と Drawbar 2、そしてプログラムに設定されているドロワーがあります。また、MIDIで設定することもできます。

DRAWBAR SELECTセクションのキーで選択することによって、そのときに応じたドロワーの設定を使うことができます(図を参照してください)。

REMSとは?

REMS(Resonant structure and Electronic circuit Modeling System)は、生楽器や電気/電子楽器の発音メカニズム、発音された音がボディ/キャビネットで共鳴するメカニズム、その音が出ているフィールドの空気感、音の伝達経路としてマイク、スピーカーなどの電気/音響的特性、真空管、トランジスタなどの電気回路による音の変化など、音色に関わる様々な要因を緻密にデジタルで再現したコルグ独自のモデリングテクノロジーです。



モードについて

NormalモードとEXモード

これらのモードで、プログラムを選んで演奏します。

NormalモードとEXモードで大きく違うところは以下のとおりです。

Normalモード

・1セットのドロワーの設定で音色を作る

EXモード

・2セットのドロワーの設定で音色を作る

Normal EditモードとEX Editモード

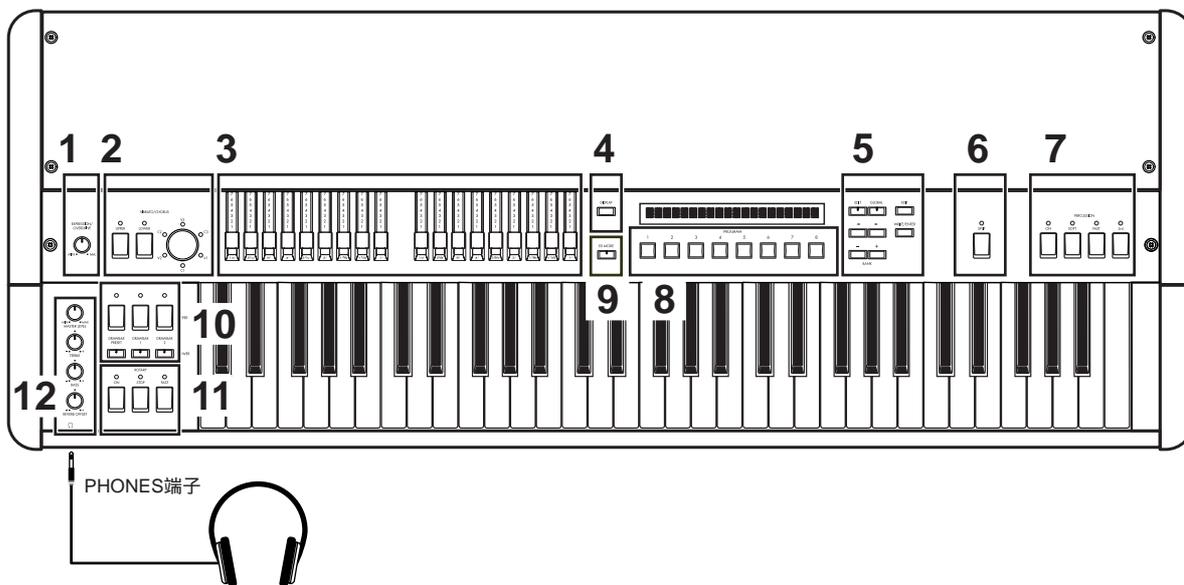
NormalモードまたはEXモードのプログラムのパラメータをエディットします。

Globalモード

マスター・チューン、トランスポーズ、グローバルMIDIチャンネル等の本体全体に関する設定を行います。

2. 各部の名称とはたらき

フロント・パネル



1. [EXPRESSION/OVERDRIVE](エクスプレッション/オーバードライブ)ツマミ

音量と同時に音色の歪みを調整します。音量が小さいときは、低音と高音が若干強調されます。

2. VIBRATO/CHORUS(ビブラート/コーラス)セクション

[UPPER]キー、[LOWER]キー

ビブラートまたはコーラスをかける鍵盤を選択します。キーを押して機能をONにすると、LEDが点灯します。

[VIBRATO/CHORUS]ツマミ

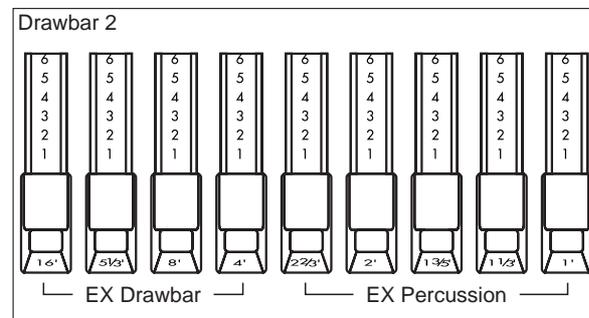
V1 ~ V3: ビブラートがかかり、V3で効果が最大になります。
C1 ~ C3: コーラスがかかり、C3で効果が最大になります。

3. DRAWBAR(ドローバー)セクション

Drawbar 1、Drawbar 2

左がDrawbar 1、右がDrawbar 2です。バーにはそれぞれフィートが割り当てられており、これを手前に引き出して音量を調整します。どのバーをどのくらい引き出すかによって音色を作ります。

Drawbar 2は、EXモードではEX Drawbar(EXドローバー)とEX Percussion(EXパーカッション)として使用されます。詳しくは「演奏しよう」(p.13)を参照してください。



4. [DISPLAY](ディスプレイ)キー

キーを押すたびに、ディスプレイの表示内容が切り替わります。
NormalモードとEXモードでは表示が異なります。詳しくは「1. ディスプレイの表示」(p.15)を参照してください。

5. [EDIT](エディット)キー

Normal EditモードとEX Editモードに入るときは、このキーを押します。

Normalモード時にこのキーを押すとNormal Editモードに、EXモード時にこのキーを押すとEX Editモードに入ります。

[GLOBAL](グローバル)キー

Globalモードに入るときは、このキーを押します。

[EXIT](エグジット)キー

Normal Editモード、EX Editモード、Globalモードから抜けるとき、またはプログラムのライト、コピー、スワップ、データ・ダンプ等の操作を中止するとき、このキーを押します。

[WRITE/ENTER](ライト/エンター)キー

プログラムのライト、コピー、スワップ、データ・ダンプ等の操作を実行するとき、このキーを押します。

[√]/[▶]キー

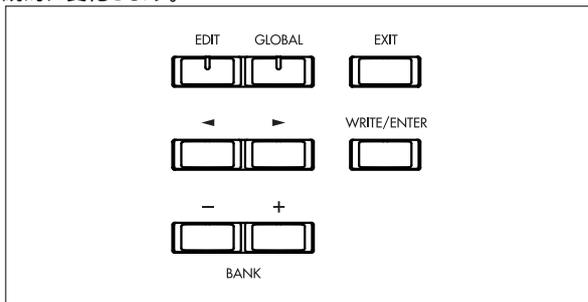
Normal Editモード、EX Editモード、Globalモードでは、前後のページに移動するとき、ディスプレイに表示されるカーソルを左右に移動するときこのキーを押します。

[-]/[+]キー

NormalモードとEXモードでは、プリセットされているプログラムのバンクを選択します。

Normal Editモード、EX Editモード、Globalモードでは、パラメータの数値を変更します。

キーを短く押すと値は1ずつ変化し、キーを長く押すと値は連続的に変化します。



6. [SPLIT](スプリット)キー

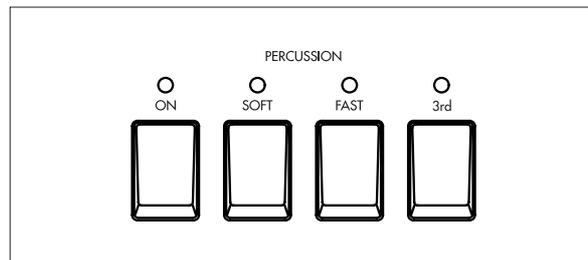
1つの鍵盤を境(スプリット・ポイント)にして、右側をアッパー鍵盤、左側をローア鍵盤の2つに分けることができます(p.14)。
仮想的にアッパーとローアの2つの鍵盤を備えています。本機の実際の鍵盤は、アッパー鍵盤として動作しますが、スプリット機能によって任意の位置で、アッパー鍵盤とローア鍵盤に分割することができます。

スプリット・ポイントはローア鍵盤の最も上の音になります。
スプリット・ポイントは、プログラムごとに設定できます。
スプリット・ポイントを変更するときは、Group 7“ Split Point ”パラメータで行います。

アッパーとローア鍵盤には個別のMIDIチャンネルを割り当てることができますので、鍵盤付きのMIDI機器をローア鍵盤用として接続することができます。

7. PERCUSSION(パーカッション)セクション

鍵盤を弾いたときに、音の立ち上がり時にアタック音を加え、音のメリハリを持たせます。
詳しくは、「4. パーカッション機能」(p.18)を参照してください。



[ON]キー

パーカッションのON、OFFを切り換えます。
ここがOFFのときは、[3rd]キー、[SOFT]キー、[FAST]キーを押しても効果が得られません。
LED点灯時: パーカッションがONになります。

[SOFT](ソフト)キー

パーカッションの音量(ソフトとノーマル)を切り換えます。
LED点灯時(ソフト): パーカッションの音量が下がります。

[FAST](ファースト)キー

パーカッションの減衰速度(ファーストとスロー)を切り換えます。
LED点灯時(ファースト): 減衰速度が上がります。

[3rd]キー

パーカッションの音(3rdと2nd)を切り換えます。
この設定は、EXモードのドローバーを使った演奏時に、EX Percussion(Drawbar 2の右5本のバー)の2-2/3 に割り当てられます。
LED点灯時(3rd): 弾いた鍵盤の音と同時に、1オクターブと5度上の音(2-2/3 に相当)が出ます。
LED消灯(2nd): 弾いた鍵盤の音と同時に、1オクターブ上の音(4 に相当)が出ます。

8. PROGRAM [1]~[8]キー

NormalモードとEXモードでは、プリセットされているプログラムをダイレクトに選択するとき使用します。

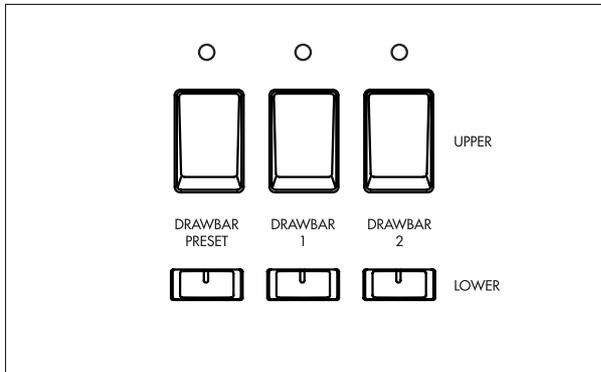
Normal Editモード、EX Editモード、Globalモードでは、パラメータの選択時のショート・カットに使用します(p.16)。

9. [EX MODE](EXモード)キー

EXモードに入るときにこのキーを押します。

10. DRAWBAR SELECT(ドロバー・セレクト)セクション

上段3つがアッパー鍵盤用、下段3つがローア鍵盤用のドロバー・セレクトで、キーを押して機能をONにすると、LEDが点灯します。



アッパーまたはローア鍵盤に、どのドロバーの設定を使用するかを選択します。

[DRAWBAR 1]キーを選択すると、演奏時にはフロント・パネルのDrawbar 1が使用できます。また[DRAWBAR 2]キーを選択するとDrawbar 2が、[DRAWBAR PRESET]キーを選択するとプログラムに設定されているドロバー・パラメータがそれぞれ使用できます。

ドロバー・パラメータの設定を変更する場合、Normalモードのプログラムは、Normal Editモードで、EXモードのプログラムでは、EX Editモードで行います。

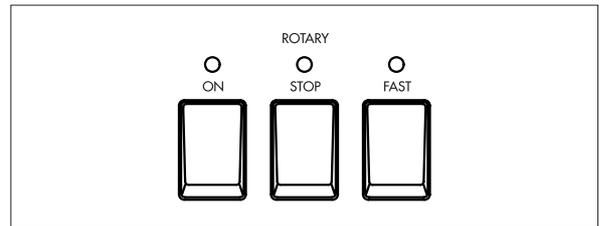
[DRAWBAR PRESET]キーのLEDが点滅または消灯しているときにこのキーを押すと、ドロバー・パラメータの設定がディスプレイに約1秒間表示されます。

EXモード時は、ローア鍵盤用には自動的に[DRAWBAR PRESET]キーが選ばれます(他は選択できません)。

11. ROTARY(ロータリー)セクション

ロータリー・スピーカーの効果を得ることができます。

詳しくは、「5. ロータリー・スピーカー」(p.19)を参照してください。



[ON]キー

ロータリー・スピーカーのON、OFFを切り換えます。

ここがOFFのときは、[FAST]キー、[STOP]キーを押しても効果が得られません。

LED点灯時: ロータリー・スピーカーがONになります。

[STOP](ストップ)キー、[FAST](ファースト)キー

ロータリー・スピーカーをコントロールします。

[STOP]キーのLED消灯時: [FAST]キーの操作で、ロータリー・スピーカーのファーストとスローを切り換えます。

[FAST]キーのLEDを点灯させると、ロータリー・スピーカーは速い回転になります。

[FAST]キーのLEDを消灯させると、ロータリー・スピーカーは遅い回転になります。

[STOP]キーのLED点灯時: [FAST]キーの操作で、ロータリー・スピーカーのファーストとストップを切り換えます。

[FAST]キーのLEDを点灯させると、ロータリー・スピーカーは速い回転になります。

[FAST]キーのLEDを消灯させると、ロータリー・スピーカーの回転は停止します。

[FAST]キーのLED消灯時: [STOP]キーの操作で、ロータリー・スピーカーのスローとストップを切り換えます。

[STOP]キーのLEDを点灯させると、ロータリー・スピーカーの回転は停止します。

[STOP]キーのLEDを消灯させると、ロータリー・スピーカーは遅い回転になります。

12. AMP(アンプ)セクション

[MASTER LEVEL](マスター・レベル)

ツマミ

接続機器に合わせて、音量を設定します。

[EXPRESSION/OVERDRIVE]ツマミや接続したエクスペッション・ペダルで音量、歪みを調整した後、ここで最終的な出力レベルを設定します。

[TREBLE](トレブル)ツマミ

高音域の音量を調整します。

[BASS](ベース)ツマミ

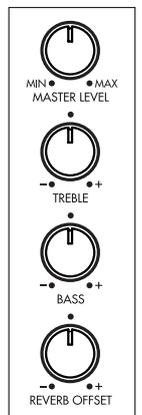
低音域の音量を調整します。

[REVERB OFFSET](リバーブ・オフ

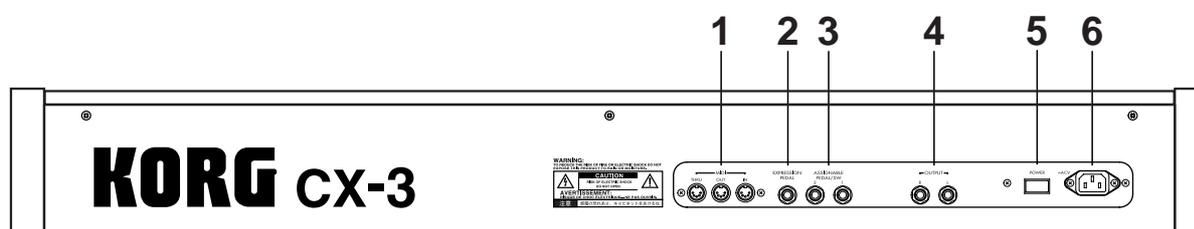
セット)ツマミ

リバーブの深さを調整します。

センター時はプログラムで設定されているリバーブの深さになり、左に回しきると効果は無く、右に回しきると効果が深くなります。



リア・パネル



1. MIDI IN 端子

演奏情報、音色情報等を受信する端子です。
接続したMIDI機器で本機の音源を鳴らすとき等で使用します。

MIDI OUT 端子

演奏情報、音色情報を送信する端子です。
接続したMIDI機器をコントロールするときに使用します。

MIDI THRU 端子

MIDI IN端子で受信した演奏情報、音色情報等を、そのまま送信する端子です。
複数のMIDI機器をMIDIケーブルで接続するときに使用します。

2. EXPRESSION PEDAL(エクスプレッション・ペダル)端子

付属のエクスプレッション・ペダルを接続します。エクスプレッションの機能等については、「5. エクスプレッション・ペダル(付属)の機能」(p.44)を参照してください。

3. ASSIGNABLE PEDAL/SW 1、2(アサインابل・ペダル/スイッチ 1、2)端子

ON、OFFを切り替えるタイプのペダル・スイッチ(別売のPS-1ペダル・スイッチ)、または別売のEXP-2フット・コントローラ、XVP-10エクスプレッション/ボリューム・ペダルを接続する端子です。

4. OUTPUT L、R(アウトプットL、R)端子

アンプ、ミキサ - などのINPUT端子と接続します。
アンバランス型フォーン・タイプの端子です。
ステレオで接続するときはLとRを、モノラルで接続するときはLを使用します。

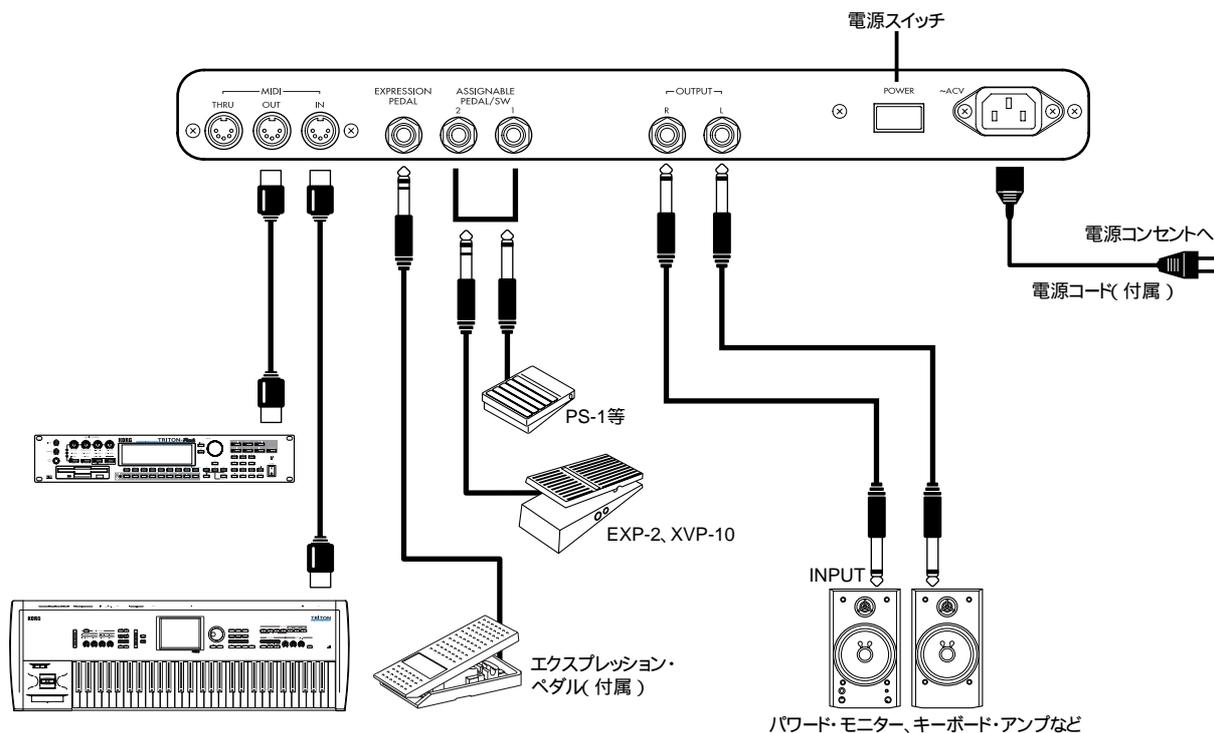
5. 電源スイッチ

電源のON、OFFを切り換えます。

6. AC電源端子

付属の電源コードを接続します。
電源コードを本体に接続してから、プラグをコンセントに差し込んでください。

接続



⚠ それぞれの接続は、必ず電源をOFFにした状態で行ってください。不注意な操作を行うと、スピーカー・システム等を破損したり、誤動作を起こす原因となります。

1. 電源コードの接続

付属の電源コードをCX-3のAC電源端子に接続してから、プラグをコンセントへ差し込みます。

2. OUTPUT 端子との接続

パワー・モニター、キーボード・アンプや、お手持ちのオーディオ・システムなどを接続して、CX-3のサウンドを出力します。

⚠ オーディオ・ステレオ・アンプに接続した場合、大音量で鳴らすとスピーカー・システムを破損することがありますので、音量を上げすぎないようにしてください。

OUTPUT L、R端子とパワー・モニター等のINPUT端子を接続します。

ステレオで出力するときは、L端子とR端子へ接続し、モノラルで出力するときは、L端子へ接続します。できるだけステレオで使用することをおすすめします。

3. ペダルの接続

EXPRESSION PEDAL 端子

付属のエクスペッション・ペダルを接続すると、フロント・パネルの[EXPRESSION/OVERDRIVE]ツマミを操作するように、ペダルで音量をコントロールできます。Globalモードの“Exp Ctrl”パラメータの設定によっては、[EXPRESSION/OVERDRIVE]ツマミとエクスペッション・ペダル的一方、または両方で音量をコントロールできます。

別売のEXP-2フット・コントローラ、XVP-10エクスペッション/ボリューム・ペダルを接続することもできます。その場合は、ペダルの操作範囲が異なることがありますので、エクスペッション・ペダルの感度を調整(p.36)してください。

ASSIGNABLE PEDAL/SW 端子

別売のコルグPS-1ペダル・スイッチを接続し、ロータリー・スピーカー効果やピブラート/コーラス効果のON、OFF、プログラムの選択等が行えます。

別売のEXP-2フット・コントローラ、XVP-10エクスペッション/ボリューム・ペダルを接続し、リバーブやアンプのゲイン等の調整が行えます。

ASSIGNABLE PEDAL/SW端子に接続したペダルでどの機能をコントロールするかは、Normal Editモード、EX Editモード、Globalモードのパラメータで決定します。複数の機能を1つのペダルに割り当てることができます。

4. MIDI 機器との接続

CX-3の鍵盤やドローパー等のコントローラーで外部MIDI音源をコントロールしたり、他のMIDIキーボードやシーケンサでCX-3の音源を鳴らすなどをコントロールします。

CX-3のMIDI端子と外部MIDI機器のMIDI端子とをMIDIケーブルで接続します。「2. MIDIアプリケーション」(p.37)をあわせて参照してください。

クイック・スタート

1. デモ演奏を聴こう

デモ演奏を聴いてみましょう。

本機には9曲のデモ演奏が用意されています。曲目については、「3. ボイスネーム・リスト」(p.42)を参照してください。

1. 電源をONにします。
2. [GLOBAL]キーを押します。
Globalモードに入り、[GLOBAL]キーのLEDが点灯します。
3. PROGRAM [8]キーを押してから[WRITE/ENTER]キーを押します。



4. もう一度[WRITE/ENTER]キーを押します。
デモ演奏が始まります。
最初の曲が終わると、次の曲が始まります。
5. 演奏を止めるときは、[EXIT]キーを押します。

tips 手順3の[WRITE/ENTER]キーを押した後で、[-]キーまたは[+]キーを押すと、最初に演奏する曲を選ぶことができます。

2. Normalモード

プログラムの選び方

ここでは、プログラムC-3(バンクCの3)を呼び出してみましょう。

1. Normalモードにいることを確認します。
ディスプレイの左にプログラムNo.が表示されます。



Normalモード以外([EX MODE]キー、[EDIT]キーまたは[GLOBAL]キーのLEDが点灯)のときは、点灯しているキーを1回押してください。[EDIT]キー、[GLOBAL]キーのLEDの点灯時は、[EXIT]キーを押してもNormalモードに入ることができません。

tips 電源をONにすると、自動的にNormalモードに入ります。

2. [-]キーまたは[+]キーを押してバンクCを選択し、PROGRAM [3]キーを押します。
C-3のプログラムが選ばれ、ディスプレイにはプログラムNo.とプログラム名が表示されます。

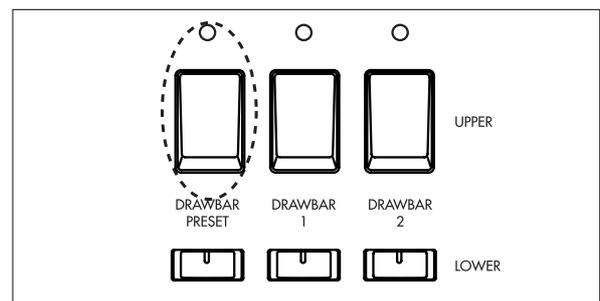


演奏しよう

ドローバー・パラメータの設定で演奏しよう

フロント・パネルのDrawbar 1と2は使用せず、プログラムに設定されているドローバー・パラメータの設定で演奏してみましょう。

1. Normalモードでプログラムを選択します。
[-]キーと[+]キーでバンクを、PROGRAM [1]~[8]キーでナンバーを選択します。
2. DRAWBAR SELECTセクションで[DRAWBAR PRESET]キーを押し、キーのLEDを点灯させます。
スプリット機能を使用しないときは、本機の鍵盤は、アッパー・鍵盤として動作しますので、ここではアッパー側の[DRAWBAR PRESET]キーを押します。



3. 鍵盤で演奏してください。
プログラムの「UPPER」パラメータで設定した音色で演奏されます。

tips スプリット機能の使用時には、スプリット・ポイントの右側がアップパー鍵盤に、左側がローア鍵盤になります。

ローア側の[DRAWBAR PRESET]キーを押すと、ローア鍵盤の演奏にプログラムの「LOWER」パラメータ設定が使用できます。

tips アッパー、ローア鍵盤には個別のMIDIチャンネルを割り当てることができますので、鍵盤付きのMIDI機器をローア鍵盤用として接続することもできます。

バーを引き出す組み合わせで音色を作ります。
各バーに何の音が割り当てられているのかは、「1. ドローバーのはたらき」(p.37)を参照してください。

6. プログラムを選択してみましょう。
[-]キーと[+]キーでバンクを、PROGRAM [1]~[8]キーでナンバーを選択します。

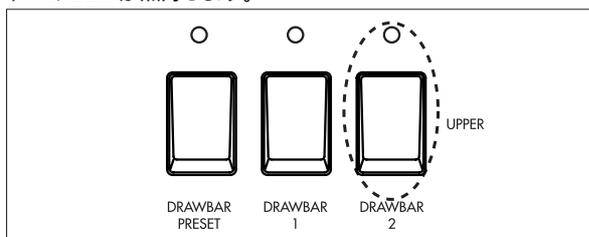
他のプログラムを選択すると、ドローバー・パラメータを除いたプログラムを構成しているパラメータの設定が音に反映されます。つまり、Drawbar 1、2の設定は生かしつつ、それ以外の設定、例えばホイール・タイプ、パーカッションの音量、リバープ・タイム、ロータリー・スピーカーのホーンとロータの回転スピード等は、プログラムごとの設定が使用されます。

Drawbar 1と2を使って演奏しよう

1. Normalモードにいることを確認してください。



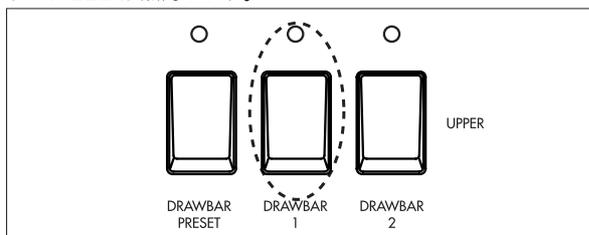
2. アッパー側のDRAWBAR SELECTセクションで[DRAWBAR 2]キーを押します。
キーのLEDが点灯します。



これで鍵盤の音色は、フロント・パネルのDrawbar 2で変更できるようになりました。

3. 鍵盤を弾きながらフロント・パネルのDrawbar 2の各バーを引き出し、音を作ります。
Drawbar 2の各バーを引き出すと、バーの先に表記されているフィートの音が弾いた鍵盤の音に加わります。またバーをどれだけ引き出したかによって加わる音量が変わります。このように、バーを引き出す組み合わせで音色を作ります。
各バーに何の音が割り当てられているのかは、「1. ドローバーのはたらき」(p.37)を参照してください。

4. アッパー側のDRAWBAR SELECTセクションで[DRAWBAR 1]キーを押します。
キーのLEDが点灯します。



これで鍵盤の音色は、フロント・パネルのDrawbar 1で変更できるようになりました。

5. 鍵盤を弾きながらフロント・パネルのDrawbar 1の各バーを引き出し、音を作ります。
Drawbar 1の各バーを引き出すと、バーの先に表記されているフィートの音が弾いた鍵盤の音に加わります。またバーをどれだけ引き出したかによって加わる音量が変わります。このように、

3. EXモード

プログラムの選び方

ここでは、プログラムB-3(バンクBの3)を呼び出してみましょう。

- Normalモードで[EX MODE]キーを押します。
EXモードに入り、[EX MODE]キーのLEDが点灯します。
ディスプレイの左に“E”の文字とプログラムNo.が表示されます。



EXモード以外([EDIT]キーまたは[GLOBAL]キーのLEDが点灯)のときは、点灯しているキーを1回押すか、[EXIT]キーを押してから[EX MODE]キーを押してください。

- [-]キーまたは[+]キーを押してバンクBを選択し、PROGRAM [3]キーを押します。
B-3のプログラムが選ばれ、ディスプレイにはプログラムNo.とプログラム名が表示されます。

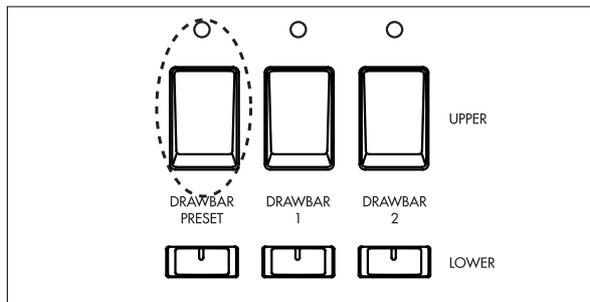


演奏しよう

ドローバー・パラメータの設定で演奏しよう

フロント・パネルのDrawbar 1と2は使用せず、プログラムに設定されているドローバー・パラメータの設定で演奏してみましょう。

- EXモードでプログラムを選択します。
[-]キーと[+]キーでバンクを、PROGRAM [1]~[8]キーでナンバーを選択します。
- DRAWBAR SELECTセクションで[DRAWBAR PRESET]キーを押し、キーのLEDを点灯させます。
スプリット機能を使用しないときは、本機の鍵盤は、アッパー・鍵盤として動作しますので、ここではアッパー側の[DRAWBAR PRESET]キーを押します。



- 鍵盤で演奏してください。
“EX DRAWBAR & PERCUSSION”パラメータのDrawbar 1とEX Drawbarで設定した音色で演奏されます。

tips スプリット機能の使用時には、スプリット・ポイントの右側がアッパー・鍵盤に、左側がローア・鍵盤になります。

ローア側には自動的に[DRAWBAR PRESET]キーが選ばれ、

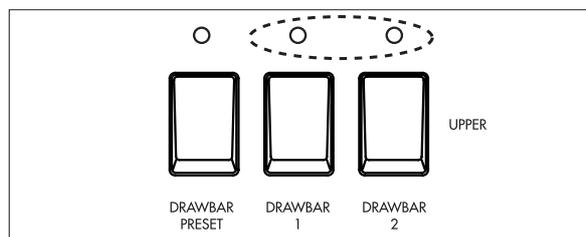
ローア・鍵盤の演奏にはプログラムの“EX LOWER”パラメータ設定が使用されます。

tips アッパー、ローア・鍵盤には個別のMIDIチャンネルを割り当てることができますので、鍵盤付きのMIDI機器をローア・鍵盤用として接続することもできます。

Drawbar 1と2を使って演奏しよう

フロント・パネルのDrawbar 1と2の両方を使用します。Drawbar 2はEXモード用のフィートとパーカッションの設定が割り当てられ、Normalモード時より、厚く表現力ある音を作ることができます。

- EXモードで、アッパー側のDRAWBAR SELECTセクションで、[DRAWBAR 1]キーまたは[DRAWBAR 2]キーを押します。
2つのキーのLEDが点灯していることを確認します。

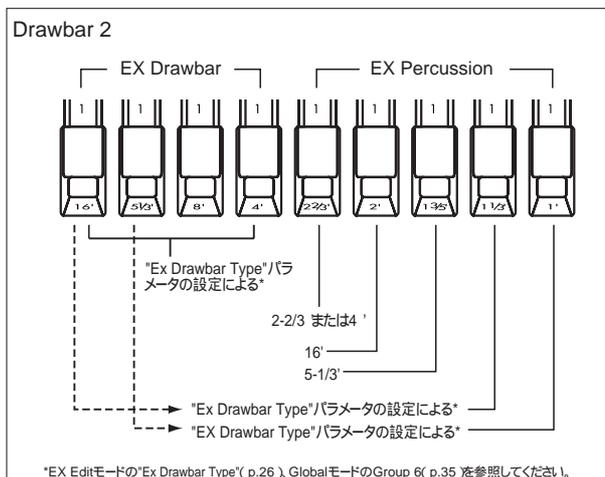


- 鍵盤を弾きながらフロント・パネルのDrawbar 1と2の各バーを引き出し、音色を作ります。

Drawbar 1は、それぞれのフィートの音量を調整します。

Drawbar 2は、EX Drawbar(左4本のバー)でそれぞれのフィートの音量を調整し、EX Percussion(右5本のバー)で各パーカッションの音量を調整します。

それぞれのバーの割り当ては、次のようになります。



EX Drawbar

16' ~ 4' : 何フィートが割り当てられるのかは、EX Editモードの“Ex Drawbar Type”のパラメータで設定されます。そして、それぞれのタイプの内容はGlobalモードの“Ex Drawbar Type 1-1”から“Ex Drawbar Type 4-4”で設定されます。各バーにどのフィートが割り当てられているかを知りたいときは、EX Editモードでどのタイプが使われているかを確認し、Globalモードでそれぞれの設定を確認してください。

EX Percussion

2-2/3 : PERCUSSIONセクションの[3rd]キーのLEDが点灯しているときは2-2/3が、LEDが消灯しているときは4'が割り当てられます。

2 : 16 が割り当てられます。

1-3/5 : 5-1/3 が割り当てられます。

1-1/3 : EX Drawbarの16 に割り当てられたフィートが割り当てられます。ただし、EX Drawbarの16 には、上述のようにEX Editモードの“ Ex Drawbar Type ”のパラメータによってフィートが割り当てられています。実際にどのフィートが割り当てられているかを知りたいときは、EX Editモードでどのタイプが使われているかを確認してから、Globalモードでそれぞれの設定を確認してください。

1 : EX Drawbarの5-1/3 に割り当てられたフィートが割り当てられます。ただし、Drawbar 2の5-1/3 には、上述のようにEX Editモードの“ Ex Drawbar Type ”のパラメータによってフィートが割り当てられているため、実際にどのフィートが割り当てられているかを知りたいときは、EX Editモードでどのタイプが使われているかを確認してから、Globalモードでそれぞれの設定を確認してください。

3. 他のプログラムを選択してみましょう。

[-]キーと[+]キーでバンクを、PROGRAM [1]~[8]キーでナンバーを選択します。

他のプログラムを選択すると、ドローバー・パラメータを除いたプログラムを構成しているパラメータの設定が音に反映されます。

tips スプリット機能の使用時には、スプリット・ポイントの右側がアップパー鍵盤に、左側がロアー鍵盤になります。

ロアー側の[DRAWBAR PRESET]キーが自動的に選択され(他は選べません)、ロアー鍵盤の演奏にはプログラムの“ EX LOWER ”パラメータ設定が使用されます。演奏中にロアー鍵盤の音色を変化させたい場合は、あらかじめドローバー・パラメータの設定だけを変えたプログラムをいくつか用意し、演奏中はそれらのプログラムを切り替えてください。

tips プリセットされているドローバーの設定を変更する場合は、EX Editモードでパラメータを変更します。詳しくは、「ドローバー・パラメータのエディット」(p.22)を参照してください。

4. スプリット機能

CX-3の鍵盤をアップパーとロアーに分け、UPPER音源とLOWER音源を別々に使用し、2段鍵盤相当の演奏ができます。

1. [SPLIT]キーを押します。
キーのLEDが点灯します。

プログラムごとに設定されているスプリット・ポイントを境にして分かれ、右側がアップパー鍵盤、左側がロアー鍵盤になります。スプリット・ポイントはロアー鍵盤の最も上の音になります。

スプリット・ポイントを変更するときは、Group 7“ Split Point ”パラメータで行います。

2. DRAWBAR SELECTセクションで、アップパー側、ロアー側を選択します。ただし、EXモード時にはロアー側は自動的に[DRAWBAR PRESET]キーが選択されます。それぞれのキーのLEDが点灯していることを確認してください。

Normalモード時は、[DRAWBAR 1]キーを押すとフロント・パネルのDrawbar 1で、[DRAWBAR 2]キーを押すと、Drawbar 2で各鍵盤の音色を作ることができます。

アップパー側に[DRAWBAR 2]キーを選択すると、フロント・パネルのPERCUSSIONセクションのキーでパーカッションが得られます。

[DRAWBAR PRESET]キーを押したときは、プログラムのドローバー設定で演奏することができます。この場合、パーカッションを加えるときは、Normal EditモードのGroup 2“ DB Preset 's Perc ”パラメータをEnaにしてください。

EXモード時は、アップパー側は自由に選択できますが、ロアー側は自動的に[DRAWBAR PRESET]キーが選択され、変更することはできません。ロアー側にはプログラムの“ EX LOWER ”パラメータ設定が使用されます。

3. 鍵盤を弾きながら、フロント・パネルの各バーを操作するなどしてください。

tips アップパー鍵盤とロアー鍵盤の音域は、Normal EditモードのGroup 7“ Split Upper Octave ”パラメータと“ Split Lower Octave ”パラメータで変更することができます。

基本操作

1. ディスプレイの表示

表示の切り替え

[DISPLAY]キーを押すたびに、ディスプレイの表示が次のように切り換わります。

ディスプレイには、各プログラムのパラメータの値が表示されます。

Normalモード

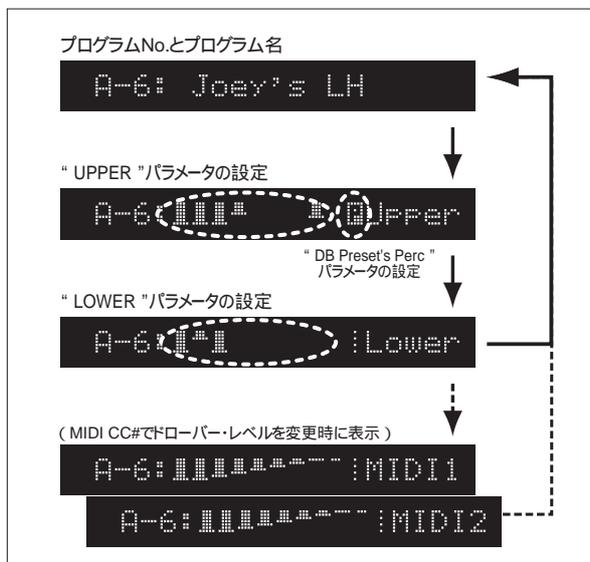
Normalモードでは、ディスプレイにプログラムNo.とプログラム名が表示されます。

[DISPLAY]キーを押すと、あらかじめプログラムに設定されている“UPPER”パラメータ(アッパー鍵盤用のドローバー・パラメータ)の設定が表示されます。

続けて[DISPLAY]キーを押すと、次は“LOWER”パラメータ(ローアキーボード用のドローバー・パラメータ)の設定が表示されます。

もう一度[DISPLAY]キーを押すと、プログラムNo.とプログラム名の表示に戻ります。

tips フロント・パネルのDrawbar 1、2は、直接バーを引き出して設定を変える以外にMIDIコントロール・チェンジの受信で変更できます。MIDIコントロール・チェンジの受信で音色を変更した場合、“LOWER”パラメータの表示の次にそれらの値が表示されます。



EXモード

EXモードでは、ディスプレイにプログラムNo.とプログラム名が表示されます。

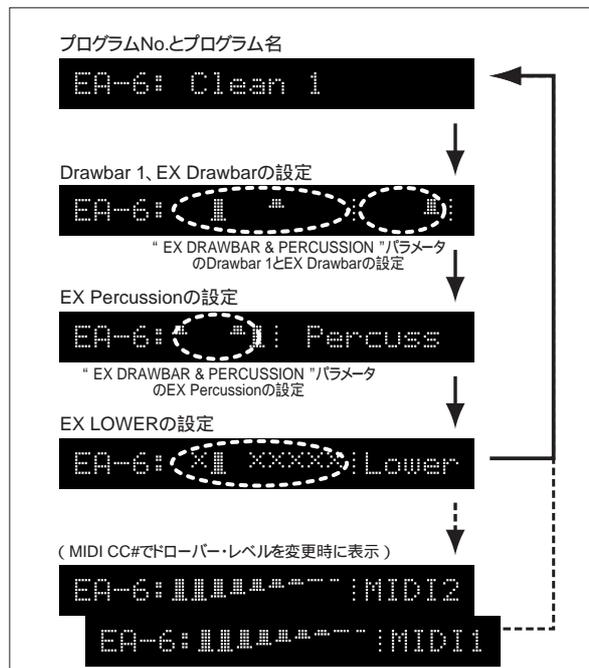
[DISPLAY]キーを押すと、あらかじめプログラムに設定されている“EX DRAWBAR & PERCUSSION”パラメータのDrawbar 1とEX Drawbarの設定が表示されます。

続けて[DISPLAY]キーを押すと、次は“EX Percussion”パラメータの設定が表示されます。

さらに[DISPLAY]キーを押すと、“EX LOWER”パラメータの設定が表示されます。

そして、もう一度[DISPLAY]キーを押すと、プログラムNo.とプログラム名が表示されます。

tips MIDIコントロール・チェンジの受信で音色を変更した場合、Normalモードと同様に、“EX LOWER”パラメータの表示の次にそれらの値が表示されます。



Normal Editモード/EX Editモード

表示される内容は、どのグループで何のパラメータが表示されているときに[DISPLAY]キーを押したかによって異なります。

[DISPLAY]キーを押している間は、以下の情報が表示されます。

- ・ Group 1: プログラム名が表示されます。
- ・ Group 2の“UPPER”、“LOWER”、“EX DRAWBAR & PERCUSSION”、“EX LOWER”パラメータ: ドローバー・レベルが数字で表示されます。
“DB Preset's Perc”パラメータ: プログラム名が表示されます。
“EX Drawbar Type”パラメータ: EX Drawbar の設定が数字で表示されます。
- ・ Group 3: プログラム名が表示されます。
- ・ Group 4: プログラム名が表示されます。
- ・ Group 5: プログラム名が表示されます。
- ・ Group 6: プログラム名が表示されます。
- ・ Group 7のコントローラをアサインするパラメータ: アサインされたコントローラが表示されます。複数のコントローラがアサインされているときは、[DISPLAY]キーを押すごとに順に表示されます。
他のパラメータ: プログラム名が表示されます。
- ・ Group 8: プログラム名が表示されます。

Globalモード

表示される内容は、どのグループで何のパラメータが表示されているときに[DISPLAY]キーを押したかによって異なります。

[DISPLAY]キーを押している間は、以下の情報が表示されます。

- Group 1 ~ 3, 8: [DISPLAY]キーを押しても、表示は変化しません。
- Group 4, 5: 選択したCC#と、コントローラ名が表示されます。[DISPLAY]キーを押す前からCC#が点滅しているときは、その番号はすでに他のコントローラが設定されていることを表しています。点滅時に[DISPLAY]キーを押すと、キーを押すごとに、設定されているコントローラ名が順に表示されます。
- Group 6: [DISPLAY]キーを押すと、現在選択されているEX Drawbarのタイプ(“Ex Drawbar Type”パラメータで設定)の4つの値が表示されます。
- Group 7の“Program Mapper”パラメータ: 現在表示されているMIDIプログラム・ナンバーに該当するプログラム番号とプログラム名が表示されます。[DISPLAY]キーを押す前からMIDIプログラム・ナンバーが点滅しているときは、その番号に設定されているプログラムがすでに存在することを表しています。点滅時に[DISPLAY]キーを押すと、押すごとに設定されているプログラム名が順に表示されます。
“Copy, Swap, Init”パラメータ: Speakerアイコンが表示されたときに[DISPLAY]キーを押すと、アイコンが付いているプログラム名が表示されます。
“MIDI Dump”パラメータ: 1プログラムのダンプ時に[DISPLAY]キーを押すと、ダンプするプログラム名が表示されます。
他のパラメータ: 表示は変化しません。

ドロワー・レベルとアイコン

: ドロワー・レベル

上の図はドロワーのレベルを表しています。レベル8(最大)のときは一番左のような表示になり、レベル0(最小)のときは一番右のように何も表示されません。

: Enterアイコン

プログラムのライトやコピーをするとき等に表示されます。このアイコンが表示されているときは、[WRITE/ENTER]キーを押すと操作が実行されることを表しています。

: Speakerアイコン

プログラムのライトやコピー等を行うときに表示されます。鍵盤を弾くと、このアイコンが付いているプログラムの音色が確認できます。

: Percussionアイコン

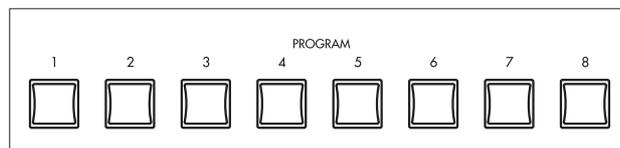
“DB Preset’s Perc”パラメータがEna(Enable)に設定されていることを表します。Enaに設定すると、Normalモードでアッパー側の[DRAWBAR PRESET]キーを選んだときに、アッパー鍵盤の演奏時にパーカッションが使用できるようになります。詳しくは、「4. パーカッション機能」(p.18)を参照してください。

ショートカット

Normal Editモード、EX Editモード、Globalモードには、パラメータが数多くあり、細かな設定が行えます。それぞれのモードでは関連するパラメータをまとめ、8つのグループ(Group 1 ~ Group 8)に分けています。

パラメータを呼び出す場合、それらのモードに入ってから[√]キーまたは[▶]キーを押して順番にパラメータを表示させることもできますが、そのパラメータがどのグループ内に含まれるのかがわかっているときは、このショートカットを利用すると便利です。

Normal Editモード、EX Editモード、Globalモードに入ってからPROGRAM [1] ~ [8]キーを押すと、そのグループの最初のパラメータがディスプレイに表示されます。[√]キーまたは[▶]キーを押すと、その前後にあるパラメータが表示されます。PROGRAM [1] ~ [8]キーを押している間は、そのキーに該当するグループ名がディスプレイに表示されます。



各グループの機能は、以下のとおりです。

Normal Editモード、EX Editモード

- Group 1: 出力レベル、トーンホイール・ノイズ、クリック・レベル等を設定します。
- Group 2: ドロワー・レベル、EXドロワー・タイプを設定します。
- Group 3: PERCUSSION セクションのキーを操作したときに、どのように動作するかを設定します。
- Group 4: アンブを設定します。
- Group 5: リバーブを設定します。
- Group 6: ロータリー・スピーカーを設定します。
- Group 7: スプリットの設定、ASSIGNABLE PEDAL/SW端子に接続したペダル等の機能、MIDIコントロール・チェンジのモジュレーション・ホイールを受信したときの動作を設定します。
- Group 8: プログラム名を変更します。

Globalモード

- Group 1: マスター・チューン、エクスペッション・ペダル等の機能、ペダル・スイッチの機能、ピッチ・バンド・レンジの可変範囲、キーボードの発音タイプ等を設定します。
- Group 2: MIDIチャンネルを設定します。
- Group 3: MIDIフィルターやローカルON/OFFを設定します。
- Group 4: ドロワーの設定を送受信するMIDIコントロール・チェンジNo.を設定します。
- Group 5: フロント・パネルのキー、接続したペダルに割り当てられるMIDIコントロール・チェンジNo.を設定します。
- Group 6: EXドロワー・タイプを設定します。
- Group 7: コピー、スワップ、プログラムの初期化、データ・ダンプの実行、DRAWBAR SELECT セクションの設定、接続したペダルのキャリブレーション、ホイール・ブレーク等を設定します。
- Group 8: デモ曲を演奏します。

2. プログラムについて

本機には、プリセットされているプログラムが128(Normalモードに64、EXモードに64)あります。

Normalモード、EXモードとも、バンクA～Hにそれぞれ8プログラムがあります。

プログラムの構成

プリセット・プログラムは以下の4つで構成されています。

- 1) オルガンの音色設定(トーンホイールの設定等)
- 2) ドローバー・パラメータの設定
- 3) エフェクトの設定
- 4) フロント・パネルのキーの設定

各プログラムで異なった設定を持つことができます。このため、プログラムを変更すると、選択したプログラムのパラメータ設定が使用されます。

プログラムごとに保存されているドローバー・パラメータの設定は、フロント・パネルのDRAWBAR SELECT セクションで[DRAWBAR PRESET]キーを選択すると使用できます。また、DRAWBAR SELECT セクションで[DRAWBAR 1] キーまたは[DRAWBAR 2] キーを選択すると、フロント・パネル上のDrawbar 1、Drawbar 2 の設定を使用します。

プログラムごとに保存されているフロント・パネルのキーの設定は、GlobalモードのGroup 1“ Prg. Chng ”パラメータでAll Paramsを選択すると使用できます。また、“ Prg. Chng ”パラメータでInt. Paramsを選択すると、フロント・パネル上のキーの状態を使用するため、プログラムを変更してもフロント・パネル上のキーの状態は変更されません。

3. 工場出荷時のプログラムに戻す

工場出荷時の設定に戻すことを初期化するといいます。

CX-3では、プログラムの設定やGlobalパラメータを工場出荷時の設定に戻すことができます。

誤ってプログラムを書き替えてしまい、工場出荷時の設定に戻したいときなどのときに、この操作を行います。

初期化には以下の4とおりがあります。

- ・1つのプログラム
- ・すべてのプログラム
- ・Globalパラメータ
- ・すべてのプログラムのパラメータとGlobalパラメータ

 初期化すると、変更した設定が工場出荷時に戻りますので、初期化しても良いかをあらかじめ確認してから操作を行ってください。

1 プログラムの初期化

1. [GLOBAL]キーを押してGlobalモードに入ります。
2. PROGRAM [7]キーを押してから[▶]キーを1回押します。ディスプレイにはCopy Swap Initと表示されます。



3. [WRITE/ENTER]キーを押します。ディスプレイにCopyの文字が点滅します。



4. [+]キーを2回押します。ディスプレイの左にはInit Programと表示され、“ Program ”の文字が点滅します。
5. [▶]キーを1回押します。プログラムNo.の左にSpeakerアイコンが表示されます。鍵盤を弾くと、プログラムの音色が確認できます。
6. [-]キーまたは[+]キーで初期化するプログラムを選択します。
7. [WRITE/ENTER]キーを押します。初期化しても良いかどうかを確認するメッセージが表示されます。中止するときは[EXIT]キーを押します。
8. もう一度[WRITE/ENTER]キーを押します。初期化が終わるとInit Completedと表示され、手順4に戻ります。
9. [EXIT]キーを2回押すと元のモードへ戻ります。

すべてのプログラムの初期化

手順1～3は、前述の「1 プログラムの初期化」と同じです。

4. [+]キーを3回押します。ディスプレイの左にはInit All Programと表示され、“ All Program ”の文字が点滅します。

5. [WRITE/ENTER]キーを押します。
初期化しても良いかどうかを確認するメッセージが表示されます。
中止するときは[EXIT]キーを押します。
6. もう一度[WRITE/ENTER]キーを押します。
初期化が終わるとInit Completedと表示され、手順4に戻ります。
7. [EXIT]キーを2回押すと元のモードへ戻ります。

Globalパラメータの初期化

手順1～3は、前述の「1プログラムの初期化」と同じです。

4. [+]キーを4回押します。
ディスプレイの左にはInit Globalと表示され、「Global」の文字が点滅します。
5. [WRITE/ENTER]キーを押します。
初期化しても良いかどうかを確認するメッセージが表示されます。
中止するときは[EXIT]キーを押します。
6. もう一度[WRITE/ENTER]キーを押します。
初期化が終わるとInit Completedと表示され、手順4に戻ります。
7. [EXIT]キーを2回押すと元のモードへ戻ります。

プログラムとGlobalパラメータの初期化

手順1～3は、前述の「1プログラムの初期化」と同じです。

4. [+]キーを5回押します。
ディスプレイの左にはInit All Dataと表示され、「All Data」の文字が点滅します。
5. [WRITE/ENTER]キーを押します。
初期化しても良いかどうかを確認するメッセージが表示されます。
中止するときは[EXIT]キーを押します。
6. もう一度[WRITE/ENTER]キーを押します。
初期化が終わるとInit Completedと表示され、手順4に戻ります。
7. [EXIT]キーを2回押すと元のモードへ戻ります。

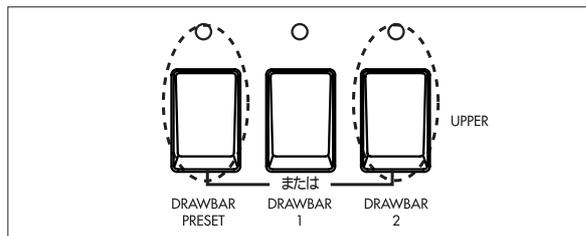
4. パーカッション機能

アッパー鍵盤の演奏時に、フロント・パネルのPERCUSSION セクションのキーやドローバーを使って、パーカッションを加えることができます。

パーカッションは、音の立ち上がり時にアタック感を加え、音にメリハリを出します。ただし、鍵盤をレガートで弾いた場合、最初の音以外はパーカッションが加わりません。

Normalモード

1. アッパー側のDRAWBAR SELECTセクションで[DRAWBAR 2]キーまたは[DRAWBAR PRESET]キーを押します。



2. PERCUSSIONセクションで[ON]キーを押します。
キーのLEDが点灯します。
 3. [FAST]キーを押します。
キーのLEDを点灯させると、パーカッションの減衰速度が上がり、キーのLEDを消灯させると、減衰速度が下がります。
 4. [SOFT]キーを押します。
キーのLEDを点灯させると、パーカッションの音量が下がり、キーのLEDを消灯させると、音量は元に戻ります。
- PERCUSSION セクションのキーを押したときの变化は、Normal EditモードのGroup 3で設定され、プログラムごとに保存されます。

パラメータで設定できる内容は以下のとおりです。

- ・ノーマル時、ソフト時の音量
- ・ファースト時、スロー時の減衰速度

PERCUSSION セクションのキーを操作してもパーカッションが加わらないときは、[DRAWBAR PRESET]キーを選んでいるかどうかを確認してください。それでもパーカッションが加わらないときは、以下の操作で“DB Preset's Perc”パラメータを確認してください。

“DB Preset's Perc”パラメータの確認

1. ディスプレイにNormalプログラム名が表示されていることを確認します。
ディスプレイにプログラム名が表示されていないときは、[DISPLAY]キーを何回か押します。
2. [DISPLAY]キーを1回押し、ディスプレイのUPPERの左側に、Percussionアイコンが表示されるかどうかを確認します。



Percussionアイコンが表示される場合は、アッパー鍵盤を弾きながらPERCUSSION セクションのキーを操作してください。Percussionアイコンが表示されない場合は、手順3へ進んでください。

▲ “DB Preset `s Perc ”パラメータはプログラムごとに設定できるので、選んだプログラムでパーカッションが使用できるかどうかについては、プログラムごとに確認してください。

- [EDIT]キーを押します。
Normal Edit モードに入ります。
- PROGRAM [2]キーを押してから[▶]キーを2回押します。
“DB Preset `s Perc ”パラメータが表示されます。
- [+]キーを1回押して、値をEna (Enable)にします。
- [EXIT]キーを押してNormalモードに戻ります。
- アッパー鍵盤を演奏しながら、PERCUSSIONセクションのキーを操作してください。

EXモード

DRAWBAR SELECT セクションの設定に関係なく、アッパー鍵盤の演奏には、フロント・パネルのPERCUSSIONセクションのキーで常にパーカッションを加えることができます。

- PERCUSSIONセクションで[ON]キーを押します。
キーのLEDが点灯します。
- [FAST]キーを押します。
キーのLEDを点灯させると、パーカッションの減衰速度が上がります、キーのLEDを消灯させると、減衰速度が下がります。

- [SOFT]キーを押します。
キーのLEDを点灯させると、パーカッションの音量が下がり、キーのLEDを消灯させると、音量は元に戻ります。

PERCUSSION セクションのキーを押したときの变化は、EX EditモードのGroup 3で設定され、プログラムごとに保存されます。

パラメータで設定できる内容は以下のとおりです。

- ・ノーマル時、ソフト時の音量
- ・ファースト時、スロー時の減衰速度

Drawbar 2のEX Percussion

アッパー側のDRAWBAR SELECTセクションで[DRAWBAR 2]キーを選んだときは、フロント・パネルのPERCUSSIONセクションのキーと同時に、フロント・パネルのDrawbar 2のバーでパーカッションを調整することができます。

EX Percussion(Drawbar 2の右5本のバー)では、あらかじめ割り当てられたパーカッションがコントロールできます。バーには以下のパーカッションが割り当てられます。詳しくは「Drawbar 1と2を使って演奏しよう」(p.13)を参照してください。

2-2/3 : 2-2/3 または4 (PERCUSSION セクションの [3rd] キーの設定による)

2 : 16'

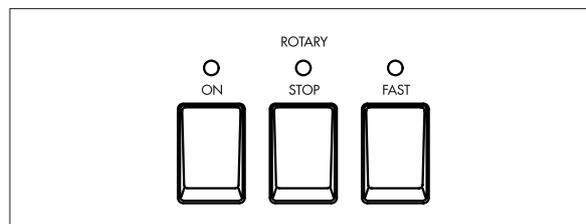
1-3/5 : 5-1/3'

1-1/3 : EX Drawbar 16 に割り当てられたフィート

1 : EX Drawbar 5-1/3 に割り当てられたフィート

5. ロータリー・スピーカー

ROTALY セクションでは、音にうねりを与えることができます。



- フロント・パネルのROTALYセクションで[ON]キーを押します。
キーのLEDが点灯します。

ROTALYセクションで[ON]キーを押した場合、LEDが3回点滅した後に消灯したときは、プログラムの“ Amp Type ”パラメータ (Normal EditモードまたはEX EditモードのGroup 4)でPre Ampが選択されています。このときはロータリー・スピーカーの効果が得られません。他のプログラムを選ぶか、“ Amp Type ”パラメータで値を変更してください。

- tips** “ Amp Type ”パラメータでPre Ampを選択しているときでも、ROTALYセクションの[STOP]キー、[FAST]キーは選択できます。Type 1やType 2を選択したプログラムを選んだときの設定に備えて、あらかじめ[STOP]キー、[FAST]キーを選択することができます。

- [FAST]キーと[STOP]キーで、ロータリー・スピーカーの回転をコントロールします。
ファーストとスローを切り換えるときは、[STOP]キーのLEDを消灯させ、[FAST]キーを操作します。
[FAST]キーを押し、LEDが点灯しているときはロータリー・スピーカーが速い回転になり、LEDが消灯しているときはロータリー・スピーカーが遅い回転になります。

ファーストとストップを切り換えるときは、[STOP]キーのLEDを点灯させ、[FAST]キーを操作します。
[FAST]キーを押し、LEDが点灯しているときはロータリー・スピーカーが速い回転になり、LEDが消灯しているときはロータリー・スピーカーの回転が停止します。

スローとストップを切り換えるときは、[FAST]キーのLEDを消灯させ、[STOP]キーを操作します。
[STOP]キーを押し、LEDが点灯しているときはロータリー・スピーカーの回転が停止、LEDが消灯しているときはロータリー・スピーカーが遅い回転になります。

ロータリー・スピーカーの設定は、Normal Editモード、EX EditモードのGroup 6で行い、プログラムごとに保存されます。

パラメータで設定できる内容は以下のとおりです。

- ・ロータリー・スピーカーのホーンとローターの音量バランス
- ・ホーン、ローターのスロー時、ファースト時の回転スピード
- ・ホーン、ローターのスローからファーストまでの時間、ファーストからスローまでの時間
- ・ホーン、ローターの回転を切ってから止まるまでの時間、回転をはじめてから設定したスピードになるまでの時間
- ・ホーン、ローターからマイクまでのそれぞれの距離
- ・ホーンとローターの音の広がり感

6. エフェクト

リバーブ

フロント・パネルの[REVERB OFFSET]ツマミで、リバーブのかかり具合を調整します。

1. 演奏しながら[REVERB OFFSET]ツマミを回します。
センターにすると、あらかじめプログラムで設定されているリバーブの深さになります。

リバーブは、Normal Editモード、EX EditモードのGroup 5で設定され、プログラムごとに保存されます。

パラメータで設定できる内容は以下のとおりです。

- ・リバーブのタイプ
- ・リバーブのタイム
- ・リバーブ量
- ・リバーブ・ルーテイング

ビブラートとコーラス

フロント・パネルのVIBRATO/CHORUSセクションで、音にビブラートまたはコーラスをかけることができます。

1. 演奏しながら、VIBRATO/CHORUSセクションの[UPPER]キーまたは[LOWER]キーで、効果を加える鍵盤を選択します。
2. [VIBRATO/CHORUS]ツマミで、ビブラートまたはコーラスを選択します。
V1 ~ V3 がビブラート、C1 ~ C3 がコーラスです。数値が大きいほど効果が得られます。

オーバー・ドライブ

フロント・パネルの[EXPRESSION/OVERDRIVE]ツマミで、オーバー・ドライブのかかり具合を調整します。このときは音量も変化します。

1. 演奏しながら[EXPRESSION/OVERDRIVE]ツマミを回します。
音源の出力レベルを調整し、内蔵されているアンプ・シミュレーションへの入力レベルを変化します。

Normal Editモード、EX EditモードのGroup 4で設定される“ Amp Gain ”パラメータ(p.27)と組み合わせて使うことで、オーバー・ドライブ効果をさらに調整することができます。

7. データの保存

CX-3のプログラム・パラメータの設定、グローバル・パラメータの設定は、プログラムのライト、MIDIデータ・ダンプで保存できます。

本体へのライト

プログラムのライト

各Editモードでパラメータをエディットして作ったプログラムを、本体メモリに保存することができます。これをプログラムのライトといいます。電源をOFFにしたあとプログラムをバックアップしたい場合は、必ずライトしてください。

プログラムを選択すると、本体内のエディット・バッファにプログラムのデータが呼び出されます。

Normal Editモード、EX Editモードでプログラムのパラメータを変更すると、エディット・バッファ内のデータが変更されます。このときは、プログラムNo.とプログラム名の間“ * ”が表示されます。

C-30 Whyter Shade

変更したデータはエディット・バッファにあるため、これを本体内のメモリに保存するためには、必ずライトを行わなければなりません。

 プログラムをライトする前に他のプログラムを選択すると、エディット・バッファに新たなデータ呼び出され、変更したデータは失われてしまいます。また、電源をOFFにするとエディット・バッファのデータは失われます。このような場合、電源をONにしたときには変更前の設定が呼び出されます。

ライトの方法

1. NormalモードまたはEXモードで、Enterアイコンが表示されていないことを確認し、[WRITE/ENTER]キーを押します。
ディスプレイの左にWRITE.と表示されます。また、右の[]内には、ライト先のプログラムNo.が表示されます。

WRITE. 4A-2 to [A-214]

2. ライト先を変更するときは[-]キーまたは[+]キーを押して、ライト先を指定します。
鍵盤を弾くと、ディスプレイでSpeakerアイコンが付いているプログラムの音を確認することができます。Speakerアイコンは[]キーと[]キーで移動できるので、ライト元とライト先のプログラムの音色を確認できます。

tips Speakerアイコンが表示されているときに[DISPLAY]キーを押すと、押している間はアイコンが付いているプログラムのプログラム名が表示されます。

tips このとき[GLOBAL]キーを押すとグローバル・パラメータのライトに移ります。プログラムのライトに戻るときは、[EDIT]キーを押します。

3. [WRITE/ENTER]キーを押します。
ライトしても良いかどうかを確認するメッセージが表示されず。
中止するときは[EXIT]キーを押します。

4. [WRITE/ENTER]キーを押します。
ライトが終わるとWrite Completedと表示されます。

Globalパラメータのライト

MIDIの設定のように、全てのプログラムに関わる内容はGlobalモードで設定されます。

電源をONにすると、本体内のGlobalモード用のメモリー・エリアにGlobalモードのデータが呼び出されます。

Globalモードでパラメータを変更すると、メモリー・エリア内のデータが変更されます。

変更したデータはメモリー・エリアにあるため、これを本体内のメモリーに保存するためには、必ずライトを行わなければなりません。

 Globalパラメータをライトする前に電源をOFFにするとメモリー・エリア内のデータは失われます。この場合、電源をONにしたときには変更前の設定が呼び出されます。

ライトの方法

1. Globalモードで、Enterアイコンが表示されていないことを確認し、[WRITE/ENTER]キーを押します。
ディスプレイの左にWRITE、Globalと表示されます。

tips このとき[EDIT]キーを押すとプログラムのライトに移ります。グローバル・パラメータのライトに戻るときは、[GLOBAL]キーを押します。

2. [WRITE/ENTER]キーを押します。
ライトしても良いかどうかを確認するメッセージが表示されます。
中止するときは[EXIT]キーを押します。
3. [WRITE/ENTER]キーを押します。
ライトが終わるとWrite Completedと表示されます。

MIDIデータ・ダンプ

本体の内部メモリーのプログラムとグローバル・パラメータの設定をMIDIエクスクルーシブ・データとして送信し、接続した外部のデータ・ファイラー等へ保存することができます。詳しくは、「MIDIデータ・ダンプ」(p.38)を参照してください。

8. エディット

選択したプログラムの音色や名前を変えることができます。プログラムをエディットするときは、作り変えたい音にイメージが一番近いプログラムを選択してから行うのがよいでしょう。

ここでは、簡単にできるエディットをいくつか紹介します。

 変更した内容をライトする前に、他のプログラムを選択したり電源をOFFにすると、設定が元に戻ってしまいます。詳しくは、「プログラムのライト」(p.20)を参照してください。

音色のエディット

CX-3には、トーンホイール・オルガンの音を再現するためのパラメータがいくつかあり、プログラムごとに設定されています。

ここでは、グループ1のパラメータをエディットしてみましょう。

1. [EDIT]キーを押してNormal EditモードまたはEX Editモードに入ります。
2. PROGRAM [1]キーを押してから[▶]キーを1回押して“Wheel Type”パラメータを表示させます。
ここではトーンホイールのタイプを選択します。
トーンホイールとは、音源に使用されている音階を得るメカニズムです。
3. [-]キーまたは[+]キーを押して値を選択します。
Vintageは、リーケージ・ノイズを含みます。これは、トーンホイールの信号が漏れて発生するノイズで、トーンホイール・オルガン特有のもので。
Cleanは、リーケージ・ノイズを含みません。
4. [▶]キーを1回押して“DB LevelCurve”パラメータを表示させ、[-]キーまたは[+]キーで値を選択します。
ここでは音色を設定します。
Brightではきらびやかな音に、Mellowでは落ち着いた音になります。
5. [▶]キーを1回押して“Over Tone Level”パラメータを表示させ、[-]キーまたは[+]キーで値を調整します。
トーンホイールの倍音レベルを調整するパラメータです。値が大きいほど倍音の量が多くなります。
6. [▶]キーを1回押して“Leakage Level”パラメータを表示させ、[-]キーまたは[+]キーで値を調整します。
ここではリーケージ・ノイズを調整します。値が大きいほどノイズの音量が大きくなります。
7. [▶]キーを1回押して“Noise Level”パラメータを表示させ、[-]キーまたは[+]キーで値を調整します。
ここでは発音に無関係に発生するノイズを調整します。値が大きいほどノイズの音量が大きくなります。
8. [▶]キーを1回押して“On Click Level”パラメータを表示させ、[-]キーまたは[+]キーで値を調整します。
このパラメータは、鍵盤を押したときに出るノイズをシミュレーションしたもので、ここではそのノイズを調整します。数値が大きいほどノイズの音量が大きくなります。

- [▶]キーを1回押して“ Off Click Level ”パラメータを表示させ、[-]キーまたは[+]キーで値を調整します。
このパラメータは、鍵盤を離れたときに出るノイズをシミュレーションしたもので、ここではそのノイズ・レベルを調整します。数値が大きいほどノイズの音量が大きくなります。
- [WRITE/ENTER]キーで本体にライトしてください。
詳しくは、「プログラムのライト」(p.20)を参照してください。

他のパラメータについて

CX-3には、音にいろいろな効果をつけるパラメータがあります。工場出荷時のプログラムは、あらかじめその音色に適した効果が設定されています。

プログラムの音色で細かい調整をするときは、Normal Editモード、EX Editモードのそれぞれのパラメータをエディットしてください。

- パーカッションの設定: Group 3 (p.26)
- アンプ・シミュレータの設定: Group 4 (p.27)
- リバーブの設定: Group 5 (p.27)
- ロータリー・スピーカーの設定: Group 6 (p.27)
- コントローラの設定: Group 7 (p.28)

ドローバー・パラメータのエディット

DRAWBAR SELECT セクションで[DRAWBAR PRESET] キーを押したときは、フロント・パネルのDrawbar 1 またはDrawbar 2 に関係なく、プログラムに保存されているドローバー・パラメータの設定が使用されます。この設定は、プログラムごとに保存されています。

Normalモード

アッパー、ローア両方のDRAWBAR SELECT セクションで[DRAWBAR PRESET] キーを選択している場合、アッパー鍵盤を弾いたときには“ UPPER ”パラメータが使用され、ローア鍵盤を弾いたときには“ LOWER ”パラメータが使用されます。

これらの設定を変更する場合は、次の手順で行ってください。

- Normalモードでプログラムを選択します。
- [EDIT]キーを押します。
Normal Editモードに入ります。
- PROGRAM [2]キーを押します。
ディスプレイの左にUPPERと表示され、その右に“ UPPER ”パラメータの設定が表示されます。



“ UPPER ”パラメータの設定が変更できないときは、DRAWBAR SELECT セクションで[DRAWBAR PRESET] キーが選択されていることを確認してください。
[DRAWBAR PRESET] キーが選択されていないときは、このキーのLEDが点滅します。

- Drawbar 1 または Drawbar 2 (どちらでも可能) のバーを動かして、ドローバー・パラメータを設定します。
動かしたバーの値がパラメータ値として入力され、それに沿ってディスプレイが変化します。

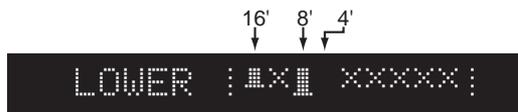
- [▶]キー1回を押して“ LOWER ”パラメータを表示させます。
- Drawbar 1 または Drawbar 2 のバーを動かして、ドローバー・パラメータを設定します。
- [WRITE/ENTER]キーで本体にライトしてください。
詳しくは、「プログラムのライト」(p.20)を参照してください。

EXモード

EXモードのローア鍵盤を弾くと、DRAWBAR SELECT セクションの設定は関係なく、プログラムにプリセットされた“ EX LOWER ”パラメータの設定で演奏されます。

この設定を変更する場合は、次の手順で行ってください。

- EXモードでプログラムを選択します。
- [EDIT]キーを押します。
EX Editモードに入ります。
- PROGRAM [2]キーを押してから[▶]キーを1回押します。
“ EX LOWER ”パラメータが表示されます。
- [▶]キーまたは[√]キーを押して、バーを選択します。
16'、8'、4' の3つのが設定できます。



- [-]キーまたは[+]キーを押して、値を設定します。
ディスプレイでレベルを確認しながら設定します。
- [WRITE/ENTER]キーで本体にライトしてください。
詳しくは、「プログラムのライト」(p.20)を参照してください。

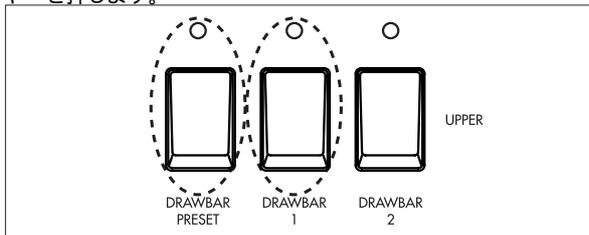
ドローバー・パラメータのコピー

フロント・パネルのDrawbar 1 または Drawbar 2 の設定を、Normalプログラムの“ UPPER ”パラメータ、“ LOWER ”パラメータ、またはEXプログラムの“ EX Drawbar Level ”パラメータへ直接コピーすることができます。

ここでは、Normalプログラムを選んでフロント・パネルのDrawbar 1 で音を作り、その設定をプログラムの“ UPPER ”パラメータへコピーしてみましょう。

- Normalモードでプログラムを選択します。
- アッパー側のDRAWBAR SELECTセクションで[DRAWBAR 1]キーを押します。
- 鍵盤を弾きながら、フロント・パネルのDrawbar 1のバーで音色を作ります。

4. アッパー側のDRAWBAR SELECTセクションで、[DRAWBAR 1]キーを押しながら[DRAWBAR PRESET]キーを押します。



Drawbar 1 のバーの設定が「UPPER」パラメータにコピーされ、プログラムNo.とプログラム名の間に「*」が表示されます。

C-3* Whyter Shade

5. [WRITE/ENTER]キーで本体にライトしてください。
詳しくは、「プログラムのライト」(p.20)を参照してください。

tips EXモードでドローバー・パラメータをコピーするときも、アッパー側のDRAWBAR SELECTセクションで行います。アッパー鍵盤で音色を作り、アッパー側の[DRAWBAR 1]キーまたは[DRAWBAR 2]キーを押しながら、[DRAWBAR PRESET]キーを押します。

プログラムのコピー

パラメータの設定を少し変えたプログラムを作り、プログラムのバリエーションをいくつか作る時に役立ちます。

- [GLOBAL]キーを押してGlobalモードに入ります。
- PROGRAM [7]キーを押してから[▶]キーを1回押します。ディスプレイにはCopy Swap Initと表示されます。
- [WRITE/ENTER]キーを押します。ディスプレイにはCopyの文字が点滅し、その右にコピー元とコピー先のプログラムNo.が表示されます。

Copy A-2 → A-2 ▶

4. [▶]キーを1回押すと、コピー元のプログラムNo.の左にSpeakerアイコンが表示されます。
鍵盤を弾くと、プログラムの音色が確認できます。

Copy ◀A-2▶ → A-2 ▶

- コピー元を変更するときは、[-]キーまたは[+]キーでプログラムNo.を指定します。
- コピー先を変更するときは、[▶]キーを1回押してから、[-]キーまたは[+]キーでプログラムNo.を指定します。
コピー先のプログラムNo.の左にSpeakerアイコンが表示されます。

Copy A-2 → ◀A-2▶

- [WRITE/ENTER]キーを押します。
コピーしても良いかどうかを確認するメッセージが表示されます。
中止するときは[EXIT]キーを押します。
- もう一度[WRITE/ENTER]キーを押します。
コピーが終わるとCopy Completedと表示されます。

プログラムのスワップ

プログラムを入れ替えます。プログラムを並べ替えるときに役立ちます。

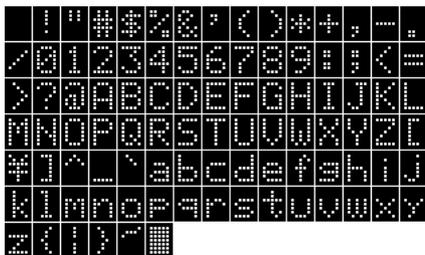
- [GLOBAL]キーを押してGlobalモードに入ります。
- PROGRAM [7]キーを押してから[▶]キーを1回押します。ディスプレイにはCopy Swap Initと表示されます。
- [WRITE/ENTER]キーを押してから、[+]キーを1回押します。ディスプレイにはSwapの文字が点滅し、その右にスワップ元とスワップ先のプログラムNo.が表示されます。

Swap A-2 ◀→▶ A-2 ▶

- [▶]キーを1回押すと、スワップ元のプログラムNo.の左にSpeakerアイコンが表示されます。
鍵盤を弾くと、プログラムの音色が確認できます。
- スワップ元を変更するときは、[-]キーまたは[+]キーでプログラムNo.を指定します。
- スワップ先を変更するときは、[▶]キーを1回押してから、[-]キーまたは[+]キーでプログラムNo.を指定します。
スワップ先のプログラムNo.の左にSpeakerアイコンが表示されます。
- [WRITE/ENTER]キーを押します。
スワップしても良いかどうかを確認するメッセージが表示されます。
中止するときは[EXIT]キーを押します。
- もう一度[WRITE/ENTER]キーを押します。
スワップが終わるとSwap Completedと表示されます。

プログラム名の変更

1. [EDIT]キーを押して、Normal EditモードまたはEX Editモードに入ります。
2. PROGRAM [8]キーを押します。
ディスプレイの左にはRenameと表示され、[]内にプログラム名が表示されます。
3. [▶]キーまたは[✓]キーで、変更する文字の位置を選択します。
4. [-]キーまたは[+]キーで文字を指定します。
12文字まで使用できます。



5. [WRITE/ENTER]キーで本体にライトしてください。
詳しくは、「プログラムのライト」(p.20)を参照してください。

パラメータについて

1. Normal Editモード/EX Editモード

Normal EditモードまたはEX EditモードでPROGRAM [1]～[8]キーを押すと、Group 1～Group 8が選ばれ、各グループの最初のパラメータが直接選ばれます。

Group 1: Basic Character

出力レベル、トーンホイール・ノイズ、クリック・レベル等を設定します。

Group 2: Drawbar

ドローパー・レベル、EXドローパー・タイプを設定します。

 Normal EditモードとEX Editモードでは表示されるパラメータが異なります。

Group 3: Percussion

PERCUSSIONセクションのキーを操作したときに、どのように動作するかを設定します。

Group 4: Amp

アンプを設定します。

Group 5: Reverb

リバーブを設定します。

Group 6: Rotary Effect

ロータリー・スピーカーを設定します。

Group 7: Controler

スプリットの設定、ASSIGNABLE PEDAL/SW端子に接続したペダル等の機能、MIDIコントロール・チェンジのモジュレーション・ホイールを受信したときの動作を設定します。

Group 8: Program Name

プログラム名を変更します。

Group 1: Basic Character

Output Level [0...127]

プログラムの出力レベルを設定します。

Wheel Type [Vintage, Clean]

トーンホイールのタイプを選択します。

Vintage: リークージ・ノイズを含んだトーンホイールです。

Clean: リークージ・ノイズを含まないトーンホイールです。

DB LevelCurve [Bright, Mellow]

音色を選択します。

ドローパーの音量バランスに変化をもたせることによって、音色が異なります。

Bright: きらびやかな音になります。

Mellow: 落ち着いた音になります。

Over Tone Level [0...99]

トーンホイールの倍音レベルを設定します。

Leakage Level [0...99]

リークージ・ノイズのレベルを設定します。

Noise Level [0...99]

発音に無関係に発生するノイズの量を設定します。

このノイズにはリークージ・ノイズが含まれ、その量は“Leakage Level”パラメータで設定したレベルによって変化します。

On Click Level [0...99]

キー・オン時のクリック音のレベルを設定します。

Off Click Level [0...99]

キー・オフ時のクリック音のレベルを設定します。

Group 2: Drawbar

UPPER (Upper Drawbar Level) [0...8]

Normal Editモード時に表示されます。



Normalモードでアップパー鍵盤を演奏するときの、フィートの音量を設定します。

値を変更するときは、Normalモード時にアップパー側のDRAWBAR SELECTセクションで[DRAWBAR PRESET]キーを押します。フロント・パネルのDrawbar 1または2のバーを動かすと、対応したフィートの音量が変更できます。バーを完全に引き出すと8になります。

tips Normalモードで、プログラム名が表示されているときに[DISPLAY]キーを1回を押すと、ディスプレイでこの設定が確認できます。

LOWER (Lower Drawbar Level) [0...8]
Normal Edit モード時に表示されます。

Normalモードでロアー鍵盤を演奏するときの、フィートの音量を設定します。

値を変更するときは、Normalモード時にロアー側のDRAWBAR SELECTセクションで[DRAWBAR PRESET]キーを押します。フロント・パネルのDrawbar 1または2のバーを動かすと、対応したフィートの音量が変更できます。バーを完全に引き出すと8になります。

tips Normalモードで、プログラム名が表示されているときに[DISPLAY]キーを2回を押すと、ディスプレイでこの設定が確認できます。

DB Preset 's Perc (Drawbar Preset Percussion) [Dis, Ena]
Normal Edit モード時に表示されます。

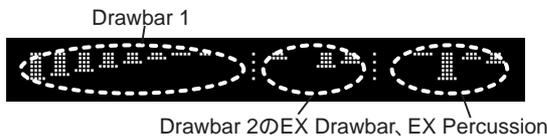
Normalモードでアップー鍵盤を演奏するとき、PERCUSSIONセクションの各キーを使用できるようにするかどうかを設定します。

Dis (Disable): PERCUSSIONセクションのキーを操作しても効果はありません。

Ena (Enable): PERCUSSIONセクションのキーを操作すると効果があります。

tips Normalモードで、プログラム名が表示されているときに[DISPLAY]キーを1回押すと、ディスプレイでこの設定が確認できます。設定がEnaのときは、UPPER表示の左にPercussionアイコンが表示されます。

EX DRAWBAR & PERCUSSION [0...8]
EX Editモード時に表示されます。



EX Editモードでアップー鍵盤を演奏するときの、フィートとパーカッションの音量を設定します。

値を変更するときは、EX Editモード時にアップー側のDRAWBAR SELECTセクションで[DRAWBAR PRESET]キーを押します。フロント・パネルのDrawbar 1または2のバーを動かすと、対応したフィートまたはパーカッションの音量が変更できます。バーを完全に引き出すと8になります。

各バーに何が割り当てられているのかは、「Drawbar 1と2を使って演奏しよう」(p.13)を参照してください。

tips EXモードで、プログラム名が表示されているときに[DISPLAY]キーを1回を押すと、ここで設定したDrawbar 1とEX Drawbar(Drawbar 2)の音量が表示されます。そして、[DISPLAY]キーもう1回を押すと、ここで設定したEX Percussion(Drawbar 2)の音量が表示されます。

EX LOWER (EX Lower Level) [0...8]
EX Editモード時に表示されます。

EXモードでロアー鍵盤を演奏するときの、フィートの音量を設定します。

設定できるドローバーは、16、8、4の3つです。設定の方法は、「EXモード」(p.22)を参照してください。

Ex Drawbar Type [1...4]
EX Editモード時に表示されます。

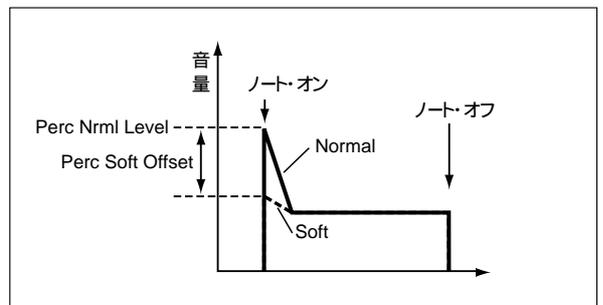
タイプを選択することで、EX Drawbar(Drawbar 2)に割り当てる音を設定します。

タイプを構成する音は、GlobalモードのGroup 6“ Ex Drawbar Type 1-1 ”から“ Ex Drawbar Type 4-4 ”のパラメータであらかじめ設定されています。

Group 3: Percussion

Perc Nrml Level (Percussion Normal Level) [0...99]
PERCUSSIONセクションの[SOFT]キーで、ノーマル(キーのLEDが消灯)を選択したときのパーカッションの音量を設定します。

Perc Soft Offset (Percussion Soft Level Offset) [0... - 99]
PERCUSSIONセクションの[SOFT]キーで、ソフト(キーのLEDが点灯)を選択したときのパーカッションの音量を設定します。この設定で、“ Perc Nrml Level ”パラメータで設定した値から、どのくらい音量を下げるかが決まります。



Normal Perc DB ATT (Normal Percussion Drawbar Attenuation) [0...99]

PERCUSSIONセクションの[SOFT]キーで、ノーマル(キーのLEDが消灯)を選択したときのドローバーで作った音色の音量を設定します。この設定で、Drawbar 2の各バーで設定した音量または“ UPPER ”パラメータで設定した音量から、どのくらい下げることが決まります。

Perc Fast Decay (Percussion Fast Decay) [0...99]
PERCUSSIONセクションの[FAST]キーで、ファースト(キーのLEDが点灯)を選択したときの減衰速度を設定します。

Perc Slow Offset (Percussion Slow Decay Offset) [0...99]
PERCUSSIONセクションの[FAST]キーで、スロー(キーのLEDが消灯)を選択したときの減衰速度を設定します。この設定で、“ Perc Fast Decay ”パラメータで設定した値から、どのくらい速度を遅くすることが決まります。

Rtry FAST Ctrl (Rotary FAST Controller)

[Off, Pedal 1/(Pdl 1)*, Pedal 2/(Pdl 2)*]

Pedal 1: リア・パネルのASSIGNABLE PEDAL/SW 1端子に接続したペダル・スイッチ等で、ROTARYセクションの[FAST]キーのON/OFFを切り換えます。

Pedal 2: ASSIGNABLE PEDAL/SW 2端子に接続したペダル・スイッチ等で、上記の操作が行えます。

Off: 機能しません。

Rtry FAST Pedal (Rotary FAST Pedal Mode)

[Alter, Momnt]

リア・パネルのASSIGNABLE PEDAL/SW 1、2端子に接続したペダル・スイッチ等のON/OFFの動作を選択します。ペダル・スイッチ等は、フロント・パネルのROTARYセクションで[FAST]キーを押したときと同じ働きをします。

Alter: ペダル・スイッチ等を一度押すと、ロータリー・スピーカーの回転が徐々に早くなり、Group 6“ Rotor Fast Speed”パラメータで設定したスピードになります。もう一度押すとロータリー・スピーカーの回転が徐々に遅くなり、Group 6“ Rotor Slow Speed”パラメータで設定したスピードになります。

Momnt: ペダル・スイッチ等を押している間はロータリー・スピーカーの回転が徐々に早くなり、Group 6“ Rotor Fast Speed”パラメータで設定したスピードになります。ペダル・スイッチ等を離すとロータリー・スピーカーの回転が徐々に遅くなり、Group 6“ Rotor Slow Speed”パラメータで設定したスピードになります。

Rtry STOP Ctrl (Rotary STOP Controller)

[Off, Pedal 1/(Pdl 1)*, Pedal 2/(Pdl 2)*]

Pedal 1: リア・パネルのASSIGNABLE PEDAL/SW 1端子に接続したペダル・スイッチ等で、ROTARYセクションの[STOP]キーのON/OFFを切り換えます。

Pedal 2: ASSIGNABLE PEDAL/SW 2端子に接続したペダル・スイッチ等で、上記の操作が行えます。

Off: 機能しません。

Rtry STOP Pedal (Rotary STOP Pedal Mode)

[Alter, Momnt]

リア・パネルのASSIGNABLE PEDAL/SW 1、2端子に接続したペダル・スイッチ等のON/OFFの動作を選択します。ペダル・スイッチ等は、フロント・パネルのROTARYセクションで[STOP]キーを押したときと同じ働きをします。

Alter: ペダル・スイッチ等を押すたびに、[STOP]キーのLEDの点灯と消灯が切り替わります。

Momnt: ペダル・スイッチ等を押している間は[STOP]キーのLEDが点灯します。

Amp Gain Ctrl (Amp Gain Controller)

[Off, Pedal 1/(Pdl 1)*, Pedal 2/(Pdl 2)*]

Pedal 1: リア・パネルのASSIGNABLE PEDAL/SW 1端子に接続したエクスプレッション・ペダル等で、Normal Editモード、EX EditモードのGroup 4“ Amp Gain”パラメータを操作します。

Pedal 2: ASSIGNABLE PEDAL/SW 2端子に接続したエクスプレッション・ペダル等で、上記の操作が行えます。

Off: 機能しません。

Amp Gain Ctrl Min (Amp Gain Control Minimum) [0...99]
Normal Editモード、EX EditモードのGroup 4“ Amp Gain”パラメータの最小の値を設定します。

“ Amp Gain Ctrl”パラメータで指定したエクスプレッション・ペダル等で、最小値にしたときのゲインです。

Amp Gain Ctrl Max (Amp Gain Control Maximum) [0...99]
Normal Editモード、EX EditモードのGroup 4“ Amp Gain”パラメータの最大の値を設定します。

“ Amp Gain Ctrl”パラメータで指定したエクスプレッション・ペダル等で、最大値にしたときのゲインです。

Rev Mix Ctrl (Reverb Mix Controller)

[Off, Pedal 1/(Pdl 1)*, Pedal 2/(Pdl 2)*]

Pedal 1: リア・パネルのASSIGNABLE PEDAL/SW 1端子に接続したエクスプレッション・ペダル等で、Normal Editモード、EX EditモードのGroup 5“ Reverb Mix Level”パラメータを操作します。
Pedal 2: ASSIGNABLE PEDAL/SW 2端子に接続したエクスプレッション・ペダル等で、上記の操作が行えます。

Off: 機能しません。

Rev Mix Ctrl Min (Reverb Mix Control Minimum) [0...99]
Normal Editモード、EX EditモードのGroup 5“ Reverb Mix Level”パラメータの最小の値を設定します。

“ Reverb Mix Ctrl”パラメータで指定したエクスプレッション・ペダル等で、最小値にしたときのリバースのミックス・レベルです。

Rev Mix Ctrl Max (Reverb Mix Control Maximum) [0...99]
Normal Editモード、EX EditモードのGroup 5“ Reverb Mix Level”パラメータの最大の値を設定します。

“ Reverb Mix Ctrl”パラメータで指定したエクスプレッション・ペダル等で、最大値にしたときのリバースのミックス・レベルです。

Mod Wheel (Modulation Wheel) [No Assign...ExLm Level]
MIDIコントロール・チェンジのモジュレーション・ホイールを受信したとき、コントロールされるパラメータを選択します。

ここで、No Assign、Rtry FAST、Wheel Brake以外を選択したときは、次の“ Mod Wheel Range”パラメータの設定によってメッセージを受信したときの動作が異なります。

No Assign: MIDIコントロール・チェンジのモジュレーション・ホイールを受信しても何もコントロールされません。

Click Level: “ On Click Level”、“ Off Click Level”パラメータ (Group 1)がコントロールされます。

Perc Level (Percussion Level): “ Perc Nrml Level”パラメータ (Group 3)がコントロールされます。

Perc Decay (Percussion Decay): “ Perc Fast Decay”パラメータ (Group 3)がコントロールされます。

Rtry FAST (Rotary Fast/Slow): フロント・パネルのROTARYセクションで[FAST]キーがコントロールされます。MIDIコントロール・チェンジのモジュレーション・ホイールを受信すると、値が127 (7 Fh)でファーストに、0 (00H)でスローになります。

Rtry Speed (Rotary Speed): “ Horn Fast Speed”、“ Horn Slow Speed”、“ Rotar Fast Speed”、“ Rotar Slow Speed”パラメータ (Group 6)がコントロールされます。

*(Pdl 1)、(Pdl 2): GlobalモードのGroup 1“ Prog Up Ctrl”または“ Prog Down Ctrl”パラメータで、Pedal 1またはPedal 2が選択されていることを表しています。この表示のときはGlobalモードの設定が使用され、この設定は使用されません。しかし、Globalモードで他の値を選択すると、この表示が(Pdl 1)からPedal 1、または(Pdl 2)からPedal 2へ変わり、ペダル・スイッチで操作できるようになります。

Wheel Brake: “ Wheel Brake ”パラメータ(Globalモードの Group 7)がコントロールされます。MIDIコントロール・チェンジのモジュレーション・ホイールを受信すると、値が127(7Fh)でホイール・ブレークがOnに、値が0(00H)で通常の状態になります。

ExLm Level (EX Lower Manual Level): EXモード時のローキーボードの音量がコントロールされます。

Mod Wheel Range (Modulation Wheel Range)

[- 99...+99]

“ Mod Wheel ”パラメータでNo Assign、Rtry FAST、Wheel Brake以外を選択したときは、MIDIコントロール・チェンジのモジュレーション・ホイールの受信によって、最大で0から99の範囲の効果がコントロールされます。

モジュレーション・ホイールの値が最小のときは、選択したパラメータの設定値になります。

モジュレーション・ホイールの値が最大のときは、選択したパラメータの設定値にこの設定値を加えた値になります。ただし0から99の範囲で動作します。



Group 8: Program Name

Rename

プログラム名を変更します。12文字まで使用できます。

[√]キーまたは[▶]キーで変更する文字を選択し、[+]キーまたは[-]キーを押して文字を選択します。

使用できる文字は以下のとおりです。

!	"	#	\$	%	&	'	()	*	+	,	-	.	:	;	<	=
/	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	:	;	<	=			
>	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l					
m	n	o	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z				
[\]	^	_	`	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j		
k	l	m	n	o	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y			
z	{	}	~														

2. Globalモード

GlobalモードでPROGRAM [1]～[8]キーを押すと、次のGroup 1～Group 8の最初のパラメータが直接選ばれます。

Group 1: Basic

マスター・チューン、エクスプレッション・ペダル等の機能、ペダル・スイッチの機能、ピッチ・ベンド・レンジの可変範囲、キーボードの発音タイプ等を設定します。

Group 2: MIDI Channel

MIDIチャンネルを設定します。

Group 3: MIDI Parameters

MIDIフィルターやローカルON/OFFを設定します。

Group 4: MIDI CC# 1

ドローバーの設定を送受信するMIDIコントロール・チェンジNo.を設定します。

Group 5: MIDI CC# 2

フロント・パネルのキー、接続したペダルに割り当てるMIDIコントロール・チェンジNo.を設定します。

Group 6: ExDrawbar Set

EXドローバー・タイプを設定します。

Group 7: Utility

コピー、スワップ、プログラムの初期化、データ・ダンプの実行、DRAWBAR SELECTセクションの設定、接続したペダルのキャリブレーション、ホイール・ブ레이크等を設定します。

Group 8: DEMO

デモ曲を演奏します。

Group 1: Basic

Master Tune [430.0Hz...450.0Hz]
全体のピッチ(音の高さ)を、A4(中央のラの音)を基準ピッチとして、0.2Hz単位で調整します。

Transpose [-12...+12]
音程を半音単位、±1オクターブの範囲で設定します。

Exp Minimum Level (Expression Minimum Level) [0...30]
エクスプレッション・ペダル等の操作時の最小レベルを設定します。
“Exp Ctrl”パラメータで選択したコントローラで、最小の値にしたときの音量です。

Exp Ctrl (Expression Controller) [Both Indiv, Knob Only, Pedal Only, Both Multi]
Both Indiv: [EXPRESSION/OVERDRIVE]ツマミと、EXPRESSION PEDAL端子に接続したエクスプレッション・ペダルの両方で音量をコントロールします。この2つは同等に機能します。
Knob Only: [EXPRESSION/OVERDRIVE]ツマミで音量をコントロールします。
Pedal Only: EXPRESSION PEDAL端子に接続したエクスプレッション・ペダルで音量をコントロールします。
Both Multi: フロント・パネルの[EXPRESSION/OVERDRIVE]ツマミと、リア・パネルのEXPRESSION PEDAL端子に接続したエクスプレッション・ペダルの両方で音量をコントロールします。
[EXPRESSION/OVERDRIVE]ツマミの状態を最大音量の設定とし、エクスプレッション・ペダルで音量を調整します。

Prog Chng (Program Change) [All Params, Int. Params]
プログラムを変更したときに、フロント・パネルのROTARYセクション、VIBRATO/CHORUSセクション、PERCUSSIONセクションの設定を、プログラムに合わせて変更するかどうかを設定します。
All Params (All Parameters): プログラムを変更すると、選んだプログラムの設定に沿ってフロント・パネルの各キーの設定も変更されます。
Int. Params (Internal Parameters): プログラムを変更しても、フロント・パネルの各キーの設定は変更されません。

Pitch Bend Range [-7...+7]
MIDIピッチ・ベンド・チェンジを受信したときの音程の可変範囲値を、半音単位で設定します。

Wheel Brake Speed [Slow, Fast]
ホイール・ブレイクの回転が停止/復帰する速度をSlowとFastから選択します。

Key Trigger [Shallow, Deep]
Shallow: 鍵盤を弾いたとき、第一接点(浅い位置)で発音、消音を行います。伝統的なコンボ・オルガンのような、歯切れがよくレスポンスの良い演奏ができます。ただし、鍵盤が戻るときの返りで、短く発音することもあります。
Deep: 鍵盤を弾いたとき、第二接点(深い位置)で発音、消音を行います。一般的な電子鍵盤楽器と同じような感覚で演奏できます。

Prog Up Ctrl (Program Up Controller)
[Off, Pedal 1/(Pdl 1), Pedal 2/(Pdl 2)]

Pedal 1: リア・パネルのASSIGNABLE PEDAL/SW 1端子に接続したペダル・スイッチでプログラムを切り換えます。ペダル・スイッチを操作すると、プログラムNo.が1つずつ大きくなります。

Pedal 2: ASSIGNABLE PEDAL/SW 2端子に接続したペダル・スイッチで、上記の操作が行えます。

Off: 機能しません。

(Pdl 1), (Pdl 2): 下記の“ Prog Down Ctrl ”パラメータで、同じペダル・スイッチが選択されていることを表しています。他のペダル・スイッチを選択してください。

 Normal Editモード、EX Editモードのパラメータとこのパラメータで、同じペダル・スイッチを設定したときは、この設定が使用され、Normal Editモード、EX Editモードの設定は使用されません。

Prog Down Ctrl (Program Down Controller)
[Off, Pedal 1/(Pdl 1), Pedal 2/(Pdl 2)]

Pedal 1: リア・パネルのASSIGNABLE PEDAL/SW 1端子に接続したペダル・スイッチでプログラムを切り換えます。ペダル・スイッチを操作すると、プログラムNo.が1つずつ小さくなります。

Pedal 2: ASSIGNABLE PEDAL/SW 2端子に接続したペダル・スイッチで、上記の操作が行えます。

Off: 機能しません。

(Pdl 1), (Pdl 2): 上記の“ Prog Down Ctrl ”パラメータで、同じペダル・スイッチが選択されていることを表しています。他のペダル・スイッチを選択してください。

 Normal Editモード、EX Editモードのパラメータとこのパラメータで、同じペダル・スイッチを設定したときは、この設定が使用され、Normal Editモード、EX Editモードの設定は使用されません。

Pedal 1 Sw Polarity (Pedal 1 Switch Polarity) [- , +]

Pedal 2 Sw Polarity (Pedal 2 Switch Polarity) [- , +]

リア・パネルのASSIGNABLE PEDAL/SW 1、2端子に接続したペダル・スイッチと同じ極性に設定します。極性の設定が一致しないときは、ペダル・スイッチを操作しても正確に動作しません。

たとえば、別売のPS-1ペダル・スイッチの極性は-()なので、このペダルを接続するときは、ここを-にします。

Group 2: MIDI Channel

MIDI Global ch (MIDI Global Channel) [1...16]

MIDIの送受信で使用するグローバルMIDIチャンネルを設定します(工場出荷時は1)。

MIDI Upper Rx ch (MIDI Upper Receive Channel) [1...16]

UPPER鍵盤のMIDIノート・メッセージを受信するときのMIDIチャンネルを設定します(工場出荷時は1)。

MIDI Upper Tx ch (MIDI Upper Transmit Channel)
[1...16, Off]

UPPER鍵盤のMIDIノート・メッセージ(ペロシティの値は固定)を送信するときのMIDIチャンネルを設定します(工場出荷時は1)。

ペロシティの値は“ MIDI Fixed Velcty ”で設定します。

MIDI Upper 2nd ch (MIDI Upper 2nd Transmit Channel) [1...16, Off]

UPPER鍵盤のMIDIノート・メッセージ(ペロシティの値は変化)を送信するときのMIDIチャンネルを設定します(工場出荷時はOff)。

Off: 送信されません。ペロシティの変化が必要なMIDI音源(ピアノ音源等)を使用しないときは、必ずOffにしてください。

 tips ここでMIDIチャンネルを設定し、MIDI音源等を接続して使用する場合、Group 1“ Key Trigger ”パラメータをDeepに設定します。

MIDI Lower Rx ch (MIDI Lower Receive Channel) [1...16]
LOWER鍵盤のMIDIノート・メッセージを受信するときのMIDIチャンネルを設定します(工場出荷時は2)。

MIDI Lower Tx ch (MIDI Lower Transmit Channel)
[1...16, Off]

LOWER鍵盤のMIDIノート・メッセージ(ペロシティの値は固定)を送信するときのMIDIチャンネルを設定します(工場出荷時は2)。

ペロシティの値は“ MIDI Fixed Velcty ”で設定します。

MIDI Lower 2nd ch (MIDI Lower 2nd Transmit Channel) [1...16, Off]

LOWER鍵盤のMIDIノート・メッセージ(ペロシティの値は変化)を送信するときのMIDIチャンネルを設定します(工場出荷時はOff)。

Off: 送信されません。ペロシティの変化が必要なMIDI音源(ピアノ音源等)を使用しないときは、必ずOffにしてください。

 tips ここでMIDIチャンネルを設定し、MIDI音源等を接続して使用する場合、Group 1“ Key Trigger ”パラメータをDeepに設定します。

Group 3: MIDI Parameters

MIDI Fixed Velcty (MIDI Fixed Velocity) [1...127]
MIDIノート・メッセージのペロシティの値を設定します(工場出荷時は64)。

MIDI Rx Prg Chng (MIDI Receive Program Change)
[Dis, Ena]

Dis (Disable): グローバルMIDIチャンネルで受信したMIDIプログラム・チェンジを無効にします。

Ena (Enable): グローバルMIDIチャンネルで受信したMIDIプログラム・チェンジを有効にします(工場出荷時はEna)。

MIDI Prog Mapper (MIDI Program Mapper) [Dis, Ena]
Dis (Disable): MIDIプログラム・チェンジの送受信時にマップを使用しません。

Ena (Enable): MIDIプログラム・チェンジの送受信時にマップを使用します(工場出荷時はEna)。

MIDI Rx Sys Exc (MIDI Receive System Exclusive)
[Dis, Ena]

Dis (Disable): 受信したシステム・エクスクルーシブ・データを無効にします。

Ena (Enable): 受信したシステム・エクスクルーシブ・データを有効にします(工場出荷時はEna)。

MIDI Rx C. Change (MIDI Receive Control Change) [Dis, Ena]

Dis (Disable): 受信したMIDIコントロール・チェンジを無効にします。

Ena (Enable): 受信したMIDIコントロール・チェンジを有効にします(工場出荷時はEna)。

MIDI Tx C. Change (MIDI Transmit Control Change) [Dis, Ena]

Dis (Disable): MIDIコントロール・チェンジを送信しません。

Ena (Enable): MIDIコントロール・チェンジを送信します(工場出荷時はEna)。

MIDI Local Cntrl (MIDI Local Control) [Off, On]

ローカル・コントロールのOn、Offを設定します(工場出荷時はOn)。

Off: 鍵盤と音源部が切り離れます。本機の音源を使用せず、本機のコントローラを使って他の音源を使用するときは、この設定にします。

Merge Lower Msg (Merge Lower Message) [Off, On]

On: GlobalモードのGroup 2“ MIDI Lower Rx Ch ”パラメータで設定したチャンネルのMIDIメッセージを、GlobalモードのGroup 2“ MIDI Lower Tx Ch ”パラメータで設定したチャンネルに変えて送信します。

MIDI IN to Lower [Off, On]

CX-3にMIDI鍵盤を接続し、2段鍵盤として使用するときはこの設定をOnにします。

On: 受信したノート・メッセージをそのチャンネルに関わらずロアー鍵盤のノート・メッセージとして扱います。そして、受信したノート・メッセージで、ロアー鍵盤を発音するだけでなく、設定されたロアー・チャンネルのノート・メッセージとしてMIDIで送信されます。このときは、上記の“ Merge Lower Msg ”パラメータをOnにしたときと同じ動作をします。また同時に、MIDIで受信するプログラム・チェンジ、コントロール・チェンジを全て無効にし、[SPLIT]キーを操作してもスプリット機能は働きません。



Group 4: MIDI CC# 1

CC# Upper DB Sel (MIDI CC# Upper Drawbar Select) [1...31, 33...95, Off]

DRAWBAR SELECTセクションのUPPER側の設定を送受信するMIDIコントロール・チェンジNo.を設定します(工場出荷時は79)。

CC# Lower DB Sel (MIDI CC# Lower Drawbar Select) [1...31, 33...95, Off]

DRAWBAR SELECTセクションのLOWER側の設定を送受信するMIDIコントロール・チェンジNo.を設定します(工場出荷時は80)。

CC# Drawbar 1 16 '(MIDI CC# Drawbar 1 - 16 ') [1...31, 33...95, Off]

Drawbar 1の16の設定を送受信するMIDIコントロール・チェンジNo.を設定します(工場出荷時は16)。

CC# Drawbar 1 5 1/3 '(MIDI CC# Drawbar 1 - 5-1/3 ') [1...31, 33...95, Off]

Drawbar 1の5-1/3の設定を送受信するMIDIコントロール・チェンジNo.を設定します(工場出荷時は17)。

CC# Drawbar 1 8 '(MIDI CC# Drawbar 1 - 8 ') [1...31, 33...95, Off]

Drawbar 1の8の設定を送受信するMIDIコントロール・チェンジNo.を設定します(工場出荷時は18)。

CC# Drawbar 1 4 '(MIDI CC# Drawbar 1 - 4 ') [1...31, 33...95, Off]

Drawbar 1の4の設定を送受信するMIDIコントロール・チェンジNo.を設定します(工場出荷時は19)。

CC# Drawbar 1 2 2/3 '(MIDI CC# Drawbar 1 - 2-2/3 ') [1...31, 33...95, Off]

Drawbar 1の2-2/3の設定を送受信するMIDIコントロール・チェンジNo.を設定します(工場出荷時は20)。

CC# Drawbar 1 2 '(MIDI CC# Drawbar 1 - 2 ') [1...31, 33...95, Off]

Drawbar 1の2の設定を送受信するMIDIコントロール・チェンジNo.を設定します(工場出荷時は21)。

CC# Drawbar 1 1 3/5 '(MIDI CC# Drawbar 1 - 1-3/5 ') [1...31, 33...95, Off]

Drawbar 1の1-3/5の設定を送受信するMIDIコントロール・チェンジNo.を設定します(工場出荷時は22)。

CC# Drawbar 1 1 1/3 '(MIDI CC# Drawbar 1 - 1-1/3 ') [1...31, 33...95, Off]

Drawbar 1の1-1/3の設定を送受信するMIDIコントロール・チェンジNo.を設定します(工場出荷時は23)。

CC# Drawbar 1 1 '(MIDI CC# Drawbar 1 - 1 ') [1...31, 33...95, Off]

Drawbar 1の1の設定を送受信するMIDIコントロール・チェンジNo.を設定します(工場出荷時は24)。

CC# Drawbar 2 16 '(MIDI CC# Drawbar 2 - 16 ') [1...31, 33...95, Off]

Drawbar 2の16の設定を送受信するMIDIコントロール・チェンジNo.を設定します(工場出荷時は70)。

CC# Drawbar 2 5 1/3 '(MIDI CC# Drawbar 2 - 5-1/3 ') [1...31, 33...95, Off]

Drawbar 2の5-1/3の設定を送受信するMIDIコントロール・チェンジNo.を設定します(工場出荷時は71)。

CC# Drawbar 2 8 '(MIDI CC# Drawbar 2 - 8 ') [1...31, 33...95, Off]

Drawbar 2の8の設定を送受信するMIDIコントロール・チェンジNo.を設定します(工場出荷時は72)。

CC# Drawbar 2 4 ' (MIDI CC# Drawbar 2 - 4 ')
 [1...31, 33...95, Off]
 Drawbar 2 の 4 の設定を送受信するMIDIコントロール・チェンジ
 No.を設定します(工場出荷時は73)。

CC# Drawbar 2 2²/₃ ' (MIDI CC# Drawbar 2 - 2-2/3 ')
 [1...31, 33...95, Off]
 Drawbar 2 の2-2/3 の設定を送受信するMIDIコントロール・チェ
 ンジNo.を設定します(工場出荷時は74)。

CC# Drawbar 2 2 ' (MIDI CC# Drawbar 2 - 2 ')
 [1...31, 33...95, Off]
 Drawbar 2 の 2 の設定を送受信するMIDIコントロール・チェンジ
 No.を設定します(工場出荷時は75)。

CC# Drawbar 2 1³/₅ ' (MIDI CC# Drawbar 2 - 1-3/5 ')
 [1...31, 33...95, Off]
 Drawbar 2 の1-3/5 の設定を送受信するMIDIコントロール・チェ
 ンジNo.を設定します(工場出荷時は76)。

CC# Drawbar 2 1¹/₃ ' (MIDI CC# Drawbar 2 - 1-1/3 ')
 [1...31, 33...95, Off]
 Drawbar 2 の1-1/3 の設定を送受信するMIDIコントロール・チェ
 ンジNo.を設定します(工場出荷時は77)。

CC# Drawbar 2 1 ' (MIDI CC# Drawbar 2 - 1 ')
 [1...31, 33...95, Off]
 Drawbar 2 の 1 の設定を送受信するMIDIコントロール・チェンジ
 No.を設定します(工場出荷時は78)。



Group 5: MIDI CC# 2

CC# Expression (MIDI CC# Expression)
 [1...31, 33...95, Off]
 [EXPRESSION/OVERDRIVE]ツマミの設定を送受信するMIDIコ
 ントロール・チェンジNo.を設定します(工場出荷時は11)。

CC# Rotary ON (MIDI CC# Rotary ON Key)
 [1...31, 33...95, Off]
 ROTARY セクションの[ON]キーの設定を送受信するMIDIコ
 ントロール・チェンジNo.を設定します(工場出荷時は81)。

CC# Rotary FAST (MIDI CC# FAST Key)
 [1...31, 33...95, Off]
 ROTARYセクションの[FAST]キーの設定を送受信するMIDIコ
 ントロール・チェンジNo.を設定します(工場出荷時は82)。

CC# Rotary STOP (MIDI CC# Rotary STOP Key)
 [1...31, 33...95, Off]
 ROTARYセクションの[Stop]キーの設定を送受信するMIDIコ
 ントロール・チェンジNo.を設定します(工場出荷時は83)。

CC# V/C Select (MIDI CC# V/C Select)
 [1...31, 33...95, Off]
 VIBRATO/CHORUSセクションの[VIBRATO/CHORUS]ツマミ
 の設定を送受信するMIDIコントロール・チェンジNo.を設定しま
 す(工場出荷時は84)。

CC# V/C UPPER (MIDI CC# V/C Upper)
 [1...31, 33...95, Off]
 VIBRATO/CHORUSセクションの[UPPER]キーの設定を送受信
 するMIDIコントロール・チェンジNo.を設定します(工場出荷時は
 85)。

CC# V/C LOWER (MIDI CC# V/C Lower)
 [1...31, 33...95, Off]
 VIBRATO/CHORUSセクションの[LOWER]キーの設定を送受信
 するMIDIコントロール・チェンジNo.を設定します(工場出荷時は
 86)。

CC# Percus ON (MIDI CC# Percussion ON Key)
 [1...31, 33...95, Off]
 PERSUSSIONセクションの[ON]キーの設定を送受信するMIDIコ
 ントロール・チェンジNo.を設定します(工場出荷時は87)。

CC# Percus SOFT (MIDI CC# Percussion Volume)
 [1...31, 33...95, Off]
 PERSUSSIONセクションの[SOFT]キーの設定を送受信するMIDI
 コントロール・チェンジNo.を設定します(工場出荷時は88)。

CC# Percus FAST (MIDI CC# Percussion Decay)
 [1...31, 33...95, Off]
 PERSUSSIONセクションの[FAST]キーの設定を送受信するMIDI
 コントロール・チェンジNo.を設定します(工場出荷時は94)。

CC# Percus 3rd (MIDI CC# Percussion Harmonic)
 [1...31, 33...95, Off]
 PERSUSSIONセクションの[3rd]キーの設定を送受信するMIDIコ
 ントロール・チェンジNo.を設定します(工場出荷時は95)。

CC# Hold (MIDI CC# Hold) [1...31, 33...95, Off]
 Normal Editモード、EX Editモードの“ Hold Uppr Ctrl ”パラメー
 タ、“ Hold Lowr Ctrl ”パラメータの設定を送受信するMIDIコ
 ントロール・チェンジNo.を設定します(工場出荷時は64)。

CC# Wheel Brake (MIDI CC# Wheel Brake)
 [1...31, 33...95, Off]
 Globalモードの“ Wheel Brake ”パラメータの設定を送受信する
 MIDIコントロール・チェンジNo.を設定します(工場出荷時は93)。

CC# Amp Gain (MIDI CC# Amp Gain) [1...31, 33...95, Off]
 Normal Editモード、EX Editモードの“ Amp Gain ”パラメータ
 の設定を送受信するMIDIコントロール・チェンジNo.を設定しま
 す(工場出荷時は92)。

CC# Reverb Level (MIDI CC# Reverb Level)
 [1...31, 33...95, Off]
 Normal Editモード、EX Editモードの“ Reverb Mix Level ”パラ
 メータの設定を送受信するMIDIコントロール・チェンジNo.を
 設定します(工場出荷時は91)。

付録

1. ドローバーのはたらき

Drawbar 1またはDrawbar 2は、それぞれ9本のバーが1組で構成されています。バーを引き出すと、その音量が大きくなります。

Normalモード、Normal Editモード時の各バーのはたらきは、以下のようになっています。

- 16' : 弾いた鍵盤の1オクターブ下の音
- 5-1/3' : 弾いた鍵盤の5度上の音
- 8' : 弾いた鍵盤の音
- 4' : 弾いた鍵盤の1オクターブ上の音
- 2-2/3' : 弾いた鍵盤の1オクターブと5度上の音
- 2' : 弾いた鍵盤の2オクターブ上の音
- 1-3/5' : 弾いた鍵盤の2オクターブと3度上の音
- 1-1/3' : 弾いた鍵盤の2オクターブと5度上の音
- 1' : 弾いた鍵盤の3オクターブ上の音

白のドローバー(8'、4'、2'、1')は基音を作ります。
黒のドローバー(2-2/3'、1-3/5'、1-1/3')は、それぞれ基音に対して5度または3度上の音です。茶色のドローバー(16'、5-1/3')は音色に深みを出します。

また、右側4本のバーを多めに引き出すと、かたい感じの音になり、左側2本のバーを多めに引き出すと、柔らかい感じの音になります。

例えば、中央のC(ド)を弾いたときは、それぞれのバーは、以下の図の音に対応しています。

EXモード、EX Editモード時のDrawbar 2(EX Drawbar、EX Percussion)の各バーのはたらきについては、Drawbar 2の図(p.13)と、EX EditモードのGroup 2" Ex Drawbar Type "パラメータ、GlobalモードのGroup 6" Ex Drawbar Type 1-1 " ~ " Ex Drawbar Type 4-4 "のパラメータを参照してください。

CX-3は、伝統的なトーンホイール・オルガンにならい、C2からF#8までを作り出す、79個のトーンホイールをシミュレートしています。従って、ドローバーの設定でC2からF#8の範囲を越える音を発音する場合は、直前のオクターブが繰り返されます。

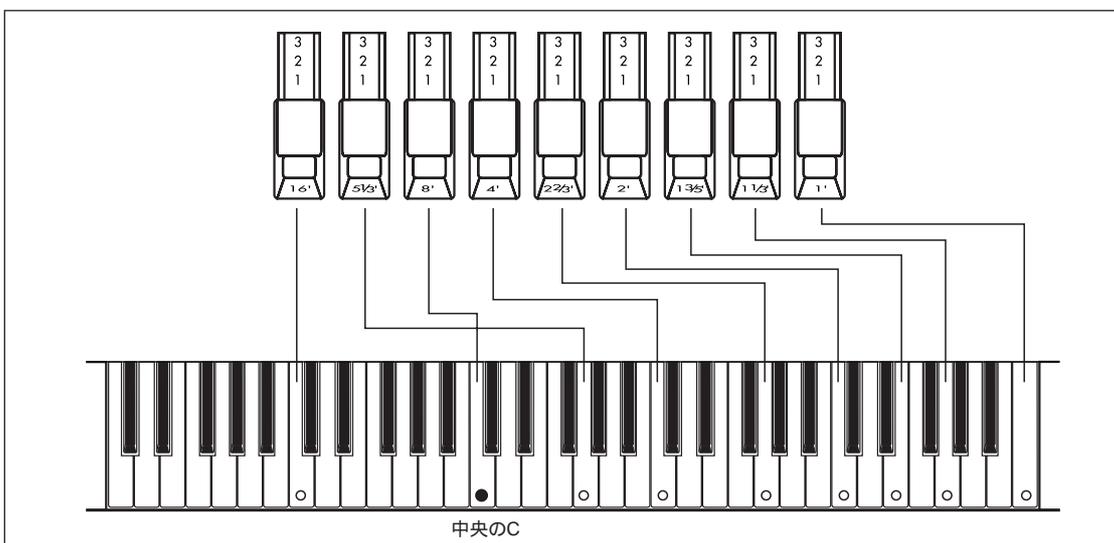
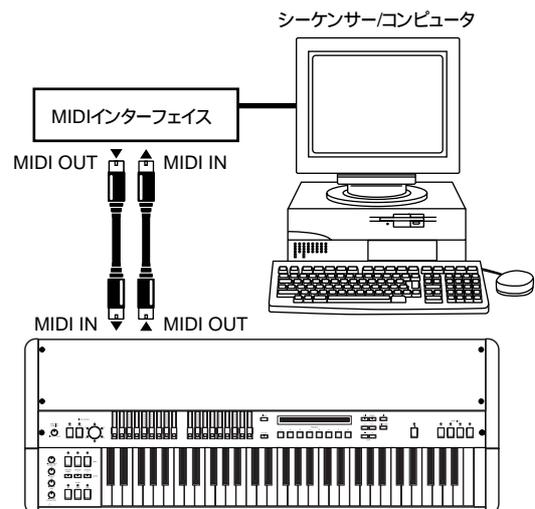
2. MIDIアプリケーション

MIDIについて

MIDIとはMusical Instrument Digital Interfaceの略で、電子楽器やコンピュータの間で、演奏に関するさまざまな情報をやりとりするための世界共通の規格です。MIDI機器同士をMIDIケーブルなどで接続することで異なるメーカーの電子楽器やコンピュータとの間で演奏情報のやりとりをすることができます。

外部MIDIシーケンサーやコンピュータ等の接続

CX-3での鍵盤演奏を外部MIDIシーケンサー/コンピュータ(MIDIインターフェイスで接続)にレコーディングし、レコーディング時のモニターやプレイバック時にCX-3の音源を鳴らす場合、またCX-3を入力用キーボード兼MIDI音源として使用する場合に、CX-3と外部MIDIシーケンサー/コンピュータのMIDI OUT端子とMIDI IN端子を相互に接続します。



Local Control On の設定

前ページのような接続の場合、外部MIDIシーケンサーやコンピュータのエコー・バックをオンにし(MIDI IN で受信したデータをそのままMIDI OUT から送信する)、本機のローカル・コントロールをオフに設定します(内部でキーボード部と音源部を切り離す)。

CX-3 の鍵盤を弾くと、演奏データが外部MIDIシーケンサーやコンピュータに送信され、これらのエコー・バックでCX-3の音源が発音することになります。つまり、CX-3のローカル・コントロールをオフにすることで、鍵盤を弾くことによる発音とエコー・バックによる発音とで、二重に発音するのを防ぎます。

ローカル・コントロールをオフに設定するときは、Global モードの Group 4 " MIDI Local Cntrl "パラメータをOffにします。

本機だけで使用する場合は、ローカル・コントロールをオンに設定します(オフ時は、単体でキーボードを弾いても音は出ません)。

MIDI 鍵盤を接続する場合

CX-3のMIDI IN端子にMIDI鍵盤を接続し、CX-3を2段鍵盤として使用するときは、Global モードの Group 3 " MIDI IN to Lower "パラメータをOnにします。

受信したノート・メッセージをそのチャンネルに関わらずロアー鍵盤のノート・メッセージとして扱います。そして、受信したノート・メッセージで、ロアー鍵盤を発音するだけでなく、設定したロアー・チャンネルのノート・メッセージとしてMIDIで送信されます。これは " Merge Lower Msg "パラメータをOnにしたときと同じ動作です。また同時に、MIDIで受信するプログラム・チェンジ、コントロール・チェンジを全て無効にし、[SPLIT]キーを操作してもスプリット機能は動きません。

接続したMIDI機器でプログラム・チェンジやCX-3のパネル上のキー類のコントロールを行う場合は、" MIDI IN to Lower "パラメータをOffにして、Globalモードの Group 2 " MIDI Global ch "パラメータで、グローバルMIDIチャンネルを接続したMIDI機器の送信チャンネルに合わせます。MIDIコントロール・チェンジNo.は、Group 4、5で変更します。

CX-3の演奏をシーケンサーに録音するとき、パネル上のすべてのキー類の状態を再現させるには、次のように操作します。

Drawbar 1、2とDRAWBAR SELECTの動作は、プログラム・チェンジで再現されないで、あらかじめ演奏で最初に使うドローバーをDRAWBAR SELECTで選びます。そして、Globalモードの Group 7 " Drawbar Scan "パラメータを実行してDrawbar 1、2の状態を送信します。

録音開始直後に、演奏に使用するプログラムを選択してプログラム・チェンジを送信します。

ベロシティ付きのMIDI音源を使用する場合

工場出荷時は、ノート・メッセージ(ベロシティは固定)を送信するように設定されています。

ベロシティ付きの音源を使用するときは、以下のパラメータを設定してください。

Globalモードの Group 2 " MIDI Upper 2nd ch "と " MIDI Lower 2nd ch "パラメータをOff以外に設定します。この設定で、設定したMIDIチャンネルでベロシティ付きのノート・メッセージが送信されるようになります。

しかし、この状態ではベロシティ付きとベロシティ固定の2つのノート・メッセージが送信されるので、Globalモードの Group 2 " MIDI Upper Tx ch "と " MIDI Lower Tx ch "パラメータをOffにします。これで、ベロシティ固定のノート・メッセージは送信されません。

その他、" MIDI Upper 2nd ch "と " MIDI Upper Tx ch "パラメータのMIDIチャンネルを、" MIDI Lower 2nd Ch "と " MIDI Lower Tx Ch "パラメータのMIDIチャンネルを重複しないように設定し、接続したMIDI機器で、ベロシティ付きのノート・メッセージが受信できるように受信チャンネルを合わせるという方法もあります。

 Globalモードの Group 1 " Key Trigger "パラメータでShallowを選択したときは、鍵盤を軽く押しただけで発音してベロシティ固定のノート・メッセージが送信されます。しかし、ベロシティ付きのノート・メッセージは鍵盤を最後まで押し込まないと送信されません。このため、ベロシティ付きのノート・メッセージを送信するように設定した場合、CX-3の音が出ていても、ノート・メッセージが送信されないことがあります。CX-3とMIDI音源の発音のタイミングを一致させるときは、" Key Trigger "パラメータでDeepを選択してください。

MIDI データ・ダンプ

接続したMIDIデータ・ファイラーやもう一台のCX-3などへ、本体のエクスクルーシブ・データを送信します。

送信

 データの送信中は、本体のキー、ドローバー、ツマミ類に触れないでください。また、絶対にCX-3の電源をOFFにしないでください。

- ダンプは以下の4つがあります。
- ・1つのプログラムのダンプ
 - ・すべてのプログラムのダンプ
 - ・グローバル・データのダンプ
 - ・すべてのデータ(プログラムとグローバル・データ)のダンプ

ダンプ・データの送信方法

1. CX-3のMIDI OUT端子と、データ・ダンプを行う機器のMIDI IN端子とを接続します。
2. Globalモードに入ります。
キーのLEDが点灯します。
3. PROGRAM [7]キーを押してから[▶]キーを2回押します。
ディスプレイにDumpと表示されます。
4. [WRITE/ENTER]キーを押します。
ディスプレイにはDump Programと表示され、" Program "の文字が点滅します。

5. ダンプするデータを選択します。
1つのプログラムをダンプするときは、ここで[▶]キーを1回押してから[+]キーまたは[-]キーでプログラムを選択します。

ここで送信されるプログラムは、手順2のGlobalモードに入る直前に選ばれていたモードのプログラムです。Normalモードのプログラムをダンプするときは、あらかじめNormalモードに入ってから手順2でGlobalモードへ入ってください。また、同様にEXモードのプログラムをダンプするときは、EXモードへ入ってから手順2でGlobalモードへ入ってください。

すべてのプログラムをダンプするときは、ここで[+]キーを1回押します。ディスプレイにはDump All Programと表示され、“All Program”の文字が点滅します。

グローバル・データをダンプするときは、ここで[+]キーを2回押します。ディスプレイにはDump Globalと表示され、“Global”の文字が点滅します。

すべてのデータをダンプするときは、ここで[+]キーを3回押します。ディスプレイにはDump All Dataと表示され、“All Data”の文字が点滅します。

6. [WRITE/ENTER]キーを押します。
ダンプしてよいかどうかが表示されます。ダンプを中止するときは[EXIT]キーを押します。
7. [WRITE/ENTER]キーを押します。
送信中は、TxSysEx Processing..と表示されます。

下の表は、ダンプするデータ・サイズと所用時間です。

データの種類	データ・サイズ	所用時間
1 Program	153 Byte	1 秒
All Programs	18.3 kByte	12 秒
Global Data	300 Byte	1 秒
All Programs +Global Data	18.6 kByte	12 秒

-  MIDIデータ・ファイラーへダンプ・データを保存するときは、複数のダンプ・データをまとめて保存しないでください。まとめて保存すると、CX-3でそれらのデータを受信した際に、下記に示したメモリーへの書き込み時間がとれず、全てのデータを受信できません。

受信

-  データの受信中は、本体のキー、ドローパー、ツマミ類に触れないでください。また、データの受信中は、絶対にCX-3の電源をOFFにしないでください。

-  ダンプ・データを受信すると、本機のディスプレイには、RxSysEx Processing..と表示されます。この間は、絶対にCX-3の電源をOFFにしないでください。電源をOFFにしてしまうと、電源をONにしたときに本機が正常に動作しなくなる場合があります。このようなときは、Program [2]キーと[7]キーを押しながら、電源をONにしてください。ただし、このときはメモリーの内容は初期化されます。

メモリーへデータを書き込んでいる間は、MIDIの送受信は行えません。本機で複数のダンプ・データの受信を続けて行うときは、ダンプ・データの送信間隔を必ずあけてください。

データの種類	メモリーへの書き込み時間
1 Program	約1 秒
All Programs	約7 秒
Global Data	約1 秒
All Programs + Global Data	約7 秒

ダンプ・データの受信方法

- CX-3のMIDI IN端子と、データ・ダンプを行う機器のMIDI OUT端子とを接続します。
- MIDI機器のGlobalチャンネルと、CX-3のグローバルMIDIチャンネルを合わせます。
CX-3のグローバルMIDIチャンネルは、GlobalモードのGroup 2“MIDI Global ch”パラメータで設定します。

MIDI機器へ送信したデータを再びCX-3で受信するときは、MIDI機器の送信時のグローバルMIDIチャンネルとCX-3のグローバルMIDIチャンネルを合わせてください。
MIDI機器のMIDIチャンネルを設定は、使用する機器の取扱説明書を参考にしてください。
- GlobalモードのGroup 3“MIDI Rx Sys Exc”パラメータをEnaにします。
- データ・ダンプする機器からデータを送信します。
使用する機器の取扱説明書を参考にデータを送信してください。

tips “MIDI Rx Sys Exc”パラメータをEnaにしてあるときは、Normalモード、EXモードでも、ダンプ・データを受信します。

- 受信が終わると、RxSysEx Completedと表示されます。
RxSysEx Errorと表示されたときは、一旦電源をOFFにし、Program [2]キーと[7]キーを押しながら、電源をONにしてください。ただし、このときはメモリーの内容は初期化されます。

1プログラムを受信する場合、プログラムは送信時と同じモードに入ります。このときCX-3の内部は受信したモードに切り替わりますので、ダンプ・データの受信後に[GLOBAL]キーまたは[EXIT]キー等でGlobalモードを抜けると、そのモードに入ります。

MIDIメッセージについて

[...]は16進表記

MIDIチャンネル

送信側と受信側のMIDIチャンネルを合わせることで、MIDIメッセージのやり取りを行います。MIDIチャンネルには1～16があります。

MIDIメッセージは、グローバルMIDIチャンネルで送受信します。グローバルMIDIチャンネルとは、GlobalモードのGroup 2“MIDI Global ch”パラメータで設定する本体のMIDI送受信の基準となるチャンネルです。

ノート・オン / オフ

ノート・オン [9n, kk, vv]

ノート・オフ [8n, kk, vv]

(n: チャンネル, kk: ノート・ナンバー, vv: ペロシティ)

CX-3では、本体の鍵盤を弾くたびに、ノート・オン / オフを送信します。

ノート・オフ時のペロシティを送受信する機種はほとんどなく、CX-3でも受信はしません。

- ・ Globalモードで、Dump Program、Dump All Program、Dump Global、Dump All Prog+Globalのパラメータを表示している間はデータ・ダンプが行えます。また、“ MIDI Rx Sys Exc ”パラメータをEnaにしているときにダンプ・リクエストを受信することによっても送信します。
Dump Programで受信したデータは、ライト・リクエストでインターナル・メモリーに書き込むことができます。



音が消えないとき

発音した音が止まらないときは、[EXIT]キーを約1秒間押してください。

3. ボイスネーム・リスト

Mod Wheel assign = "Click Level"

Normalモード

Genre	Jazz Perc	Mellow	Rock 1	Gospel	R&B	Jazz	Rock 2	Church	
Bank / No.	1	2	3	4	5	6	7	8	
Name	Pedal1/2	Name	Pedal1/2	Name	Pedal1/2	Name	Pedal1/2	Name	Pedal1/2
A	Organized RF/--	Comp RF/--	Felix'sDaKat RF/--	BC Gospel 1 RF/--	Classic Soul RF/--	Joey's LH RF/--	DS Balls! RF/--	Quiet Hymn 2 RF/--	
B	Bro J RF/--	LS Jazz RF/--	BC LowerComp RF/--	Preachin' RF/--	ShoTown RF/--	LS Fats "W" RF/--	Turkish RF/WB	Dulciana RF/--	
C	Cat On aMojo RF/--	Jazz Comp RF/--	Whyter Shade RF/--	GP Gon2Church RF/--	Huggipz RF/--	TC Bass Comp RF/--	SmokeInJapan --/--	Salcional RF/--	
D	BA PercSplit --/--	BA Mellow RF/--	Carpet Magic RF/--	Keepin' On RF/--	LS DirtyFunk RF/--	Blueznote RF/--	AK ChestBand RF/--	DM Hymn Pt2 RF/--	
E	GP NicePerc RF/--	Barfly RF/--	Nice Chords RF/--	LS GospelFunk RF/--	BC Schnoz RF/--	Jazzy Ballad RF/--	Mr. Nice :-)	French Horn RF/--	
F	Go McJimmy RF/--	Joey Jazz RF/--	Gimme Some RF/--	BC Gospel 2 RF/--	Wat's Up? RF/--	Slow Groove RF/--	Deep Hush RF/--	Oboe Horn RF/--	
G	BC Best Solo RF/--	AK Smooth "J" RF/--	AK OnionBook RF/--	TC SoulfuSP RF/--	Smoothie RF/--	Perc Combo --/--	BC Rock Solo RF/--	Quiet Hymn 1 RF/--	
H	GP MintJewel RF/--	BA THE Sound --/--	Voxinental --/--	BC Best Full RF/--	Memphis Soul RF/--	TC Celeste RF/--	Whirly Perc RF/--	DM Hymn Pt1 RF/--	

EXモード

Mod Wheel assign = "Ex Lm Level"

Genre	Standard 1	Pipe Organ	Attack	EX Mellow	Bright	Clean/Perc	Combo	Standard 2	
Bank / No.	1	2	3	4	5	6	7	8	
Name	Pedal1/2	Name	Pedal1/2	Name	Pedal1/2	Name	Pedal1/2	Name	Pedal1/2
A	I Gota EX! RF/--	Pipe Organ 1 --/--	EX Perky 2 RF/--	EX Gentle 1 RF/--	Mixture 1 RF/--	Clean 1 RF/--	Combo 1 --/--	EX Full 1 RF/--	
B	TC EX-Glassy RF/--	Pipe Organ 2 --/--	EX Perky 3 RF/--	Clean 5 RF/--	Mixture 2 RF/--	Clean 2 --/--	Combo 2 --/--	EX Full 2 RF/--	
C	EX Rock Perc RF/--	Pipe Organ 3 --/--	Attack 1 RF/--	Clean 6 RF/--	Mixture 3 RF/--	Clean 3 RF/--	Combo 3 --/--	EX NuHi RF/--	
D	B Leakn RF/--	Full Pipes --/--	Attack 2 RF/--	EX Sweet 1 RF/--	Mixture 4 RF/--	Clean 4 --/--	Combo 4 --/--	EX Otones 2 RF/--	
E	Attack Fat RF/--	Mix Bright 1 --/--	Attack 3 RF/--	EX Gentle 2 RF/--	EX All RF/--	Percussion 1 RF/--	Combo 5 --/--	EX Rokin RF/--	
F	EX Mr. Nice RF/--	EX Church RF/--	Metal 1 RF/--	EX Sweet 2 RF/--	Bright 1 RF/--	Percussion 2 RF/--	Combo 6 RF/--	EX Wistfl RF/--	
G	TC EX-Fusion RF/--	EX Chapel RF/--	Metal 2 RF/--	Comp+Perc RF/--	Bright 2 RF/--	Percussion 3 RF/--	Caliope Lead RF/--	Whistler RF/--	
H	EX Perky 1 RF/--	EX Hymnal RF/--	EX Otones 1 RF/--	Mix Bright 2 RF/--	Gen-EX! RF/--	EX Bass --/--	Toy Organ RF/--	Throaty! RF/--	

Pedal1/2: * Assignable Pedal/SW 1* / * Assignable Pedal/SW 2* の設定

RF: Rotary Fast control

WB: Wheel Brake control

--: Off

デモ曲

- 1 Y's Groovin'
- 2 KATANA
- 3 Church Hymn
- 4 TC Kool Blues
- 5 GP Jazz Waltz
- 6 BC CX Prelude
- 7 GP Gospel
- 8 Samba de Rit
- 9 Mama takes me

*Special thanks for voicing and demo songs

BA: Brian Auger

GP: Greg Phillinganes

AK: Al Kooper

BC: Bill Champlin

TC: Tom Coster

LS: Lonnie Smith

DM: Don Muro

DS: Derek Sherinian

and more

All songs copyright by KORG Inc.

4. 故障とお思いになる前に

電源が入らない

- ・電源コードがコンセントに接続されていますか？
接続を確認してください。……………(p.10 参照)
- ・電源スイッチがONになっていますか？
電源スイッチのON、OFFを確認してください。

音が出ない

- ・接続器機やヘッドホンは正しく接続されていますか？
接続を確認してください。……………(p.10 参照)
- ・アンプ、ミキサーの電源は入っていますか？
- ・[MASTER LEVEL]ツマミの設定は上がっていますか？
- ・GlobalモードのGroup 3“ Local Control ”パラメータの設定がOnになっていますか？
パラメータの設定を確認してください。
- ・Drawbar 1、2のバーは、引き出されていますか？
各バーを引き出してください。

Drawbar 1、2のバーを動かしても音が変わらない

- ・DRAWBAR SELECTセクションの設定は正しいですか？
バーを使って演奏するときは、DRAWBAR SELECTセクションで[DRAWBAR 1]キーまたは[DRAWBAR 2]キーを選択します。……………(p.12、13 参照)

パーカッションが鳴らない

- ・DRAWBAR SELECTセクションの設定は正しいですか？
PERCUSSIONセクションのキーを使うときは、アッパー側のDRAWBAR SELECTセクションで[DRAWBAR 2]キーを選択します。……………(p.18 参照)
- ・Normal Editモードの“ DB Preset 's Perc ”パラメータの設定がEnaになっていますか？
パラメータの設定を確認してください。……………(p.18 参照)
- ・パーカッションに関するパラメータの設定は正しいですか？
Normal Editモードの“ Percussion Nrml Level ”パラメータの設定値に“ Percussion Soft Offset ”パラメータの設定値を加えたものがパーカッションのソフト時の値になります。0以下になるとソフト時にパーカッションの音はしません。……………(p.26 参照)

ロータリー・スピーカーの効果が得られない

- ・アンプの選択は正しいですか？
Normal Editモード、EX EditモードのGroup 4“ Amp Type ”パラメータでType 1またはType 2を選択します。Pre Ampを選択するとロータリー・スピーカーは使用されません。…(p.19 参照)

外部から送信されたMIDIデータに反応しない

- ・MIDIケーブルは正しく接続されていますか？
接続を確認してください。……………(p.10 参照)
- ・MIDIチャンネルは一致していますか？
設定を確認してください。

外部機器から送信されたMIDIデータに正しく応答しない

- ・MIDIエクスクルーシブ・メッセージを受信する場合に“ MIDI Rx Sys Exc ”パラメータがEnaになっていますか？
パラメータの設定を確認してください。
- ・CX-3 が対応しているメッセージを送信していますか？

リア・パネルに接続したペダル・スイッチ、エクスプレッション・ペダル等を操作しても、意図した動作が得られない

- ・GlobalモードのGroup 1“ Prog Up Ctrl ”または“ Prog Down Ctrl ”パラメータに、Pedal 1やPedal 2を選択していませんか？
ペダル・スイッチ、エクスプレッション・ペダルには複数の機能を割り当てることができます。ただし、GlobalモードのGroup 1 “ Prog Up Ctrl ”または“ Prog Down Ctrl ”パラメータにペダル・スイッチ等が選択されていると、Globalモードの設定が優先されるので、Normal Editモード、EX Editモードの設定は使用されません。各パラメータの設定を確認してください。

外部のMIDI機器と接続したときに、予期しない動作をする。

- ・CC#は重複していませんか？
CX-3は、フロント・パネルのキー、ドロワー等のほとんどの操作をCC#として送信できるため、工場出荷時の設定に、標準的なMIDI機器と異なるCC#が割り当てられています。そのためMIDIで他の機器と接続した場合、CX-3のCC#が接続したMIDI機器の異なる機能と重複することがあり、予期しない動作が起こることがあります。
GlobalモードのGroup 4、5のCC#に関するパラメータを確認し、不要なパラメータをOffにしたり、CC#を変更したりしてください。

5. エクスプレッション・ペダル(付属)の機能

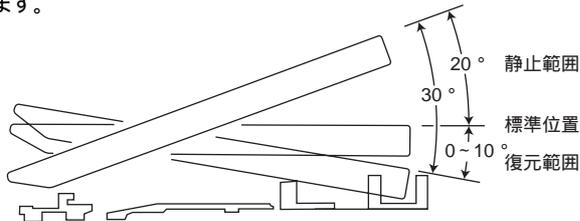
フォルテシモ機能

音量等を強調できます。

下図に示すように、全踏込角度は 30° です。標準位置までは自由に静止させることができます。

標準位置からさらに踏み込んだ場合、足を離すと自然に標準位置まで回復します。

また、底面のネジを回して、復元範囲を $0 \sim 10^{\circ}$ まで変えることができます。

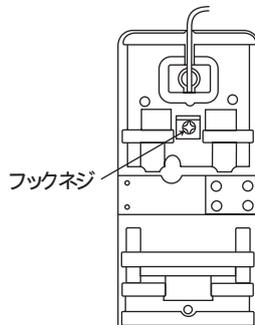
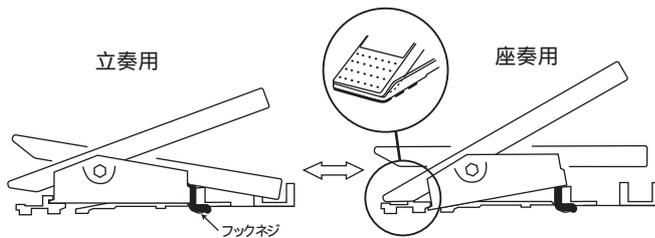


ペダル角度切り替え機能

キーボードの演奏姿勢に合わせ、ペダルの角度を下図のように変えることができます。

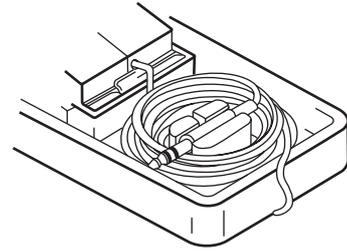
ペダル角度の変え方

1. ドライバーでフックネジをゆるめます。
2. 本体を座奏用または立奏用のイラストの位置に移動します。
3. 再びフックネジを締めて固定します。



ケーブルの収納

ケーブルは、下図のように本体に収納できます。



6. 仕様とオプション

音源部

音源名: トーンホイール・オルガン・モデリング音源
同時発音数: 全鍵盤完全ポリフォニック

モード

Normalモード、EXモード、Normal Editモード、EX Editモード、Globalモード

エフェクト部

ビブラート/コーラス、ロータリー・スピーカー、オーバー・ドライブ、リバーブ

プログラム数

Normalモード: 64(A-1 ~ H-8)
EXモード: 64(A-1 ~ H-8)

キーボード

61 鍵

コントローラ

DRAWBAR SELECT セクション
(UPPER 鍵盤用): [DRAWBAR 1]キー、[DRAWBAR 2]キー、[PRESET DRAWBAR]キー
(LOWER 鍵盤用): [DRAWBAR 1]キー、[DRAWBAR 2]キー、[PRESET DRAWBAR]キー

DRAWBAR セクション: Drawbar 1、Drawbar 2

PERCUSSION セクション: [ON]キー、[SOFT]キー、[FAST]キー、[3rd]キー

ROTARY セクション: [ON]キー、[STOP]キー、[FAST]キー

VIBRATO CHORUS セクション: [UPPER]キー、[LOWER]キー、[VIBRATO/CHORUS]ツマミ

AMP セクション: [MASTER LEVEL]ツマミ、[TREBLE]ツマミ、[BASS]ツマミ、[REVERB OFFSET]ツマミ

その他: [EXPRESSION/OVERDRIVE]ツマミ、[DISPLAY]キー、[EX MODE]キー、[EDIT]キー、[GLOBAL]キー、[WRITE/ENTER]キー、[EXIT]キー、PROGRAM [1]~[8]キー、[√]/[▶]キー、[+]/[-]キー、[SPLIT]キー

アウトプット

OUTPUT L、R 端子: 最大出力レベル..... +17.5 [dBu]
負荷インピーダンス.....10 [kΩ]以上
PHONES 端子: 最大出力レベル.....50 mW@32 Ω/ch

コントロール・インプット

EXPRESSION PEDAL 端子
ASSIGNABLE PEDAL/SW 1、2 端子

その他

MIDI IN 端子、MIDI OUT 端子、MIDI THRU 端子
AC 電源端子、電源スイッチ

電源

AC100 V

外形寸法(W X D X H)

1,082 × 403 × 148 mm(ゴム足を含む)

重量

17 Kg

消費電力

14 W

付属品

電源コード、エクスプレッション・ペダル

オプション

XVP-10エクスプレッション/ボリューム・ペダル、EXP-2フット・コントローラ、PS-1ペダル・スイッチ、MIDIケーブル

*製品の外观および仕様は、予告無く変更することがあります。(2002年5月現在)

索引

A		セ	
Amp	27	接続	10, 37, 38
C		テ	
Click Level	25	データ・ダンプ	35, 38
Controler	28	ディスプレイ	
Copy	22, 23, 35	EXモード	15
E		Globalモード	16
EX Editモード	25	Normalモード	15
EX Percussion	13	デモ演奏	11
G		ボイスネーム・リスト	42
Globalモード	31	ト	
M		ドローバー	25, 37
Master Tune	31	DB LevelCurve	25
MIDI	32, 37, 46	Default DB Select	36
MIDIについて	37	Drawbar Scan	35
MIDI Channel	32	EX Drawbar	13
MIDI Control Change	33, 34	Ex Drawbar Type	26, 35
MIDIメッセージ	39	EXモード	13
N		Normalモード	12
Normal Editモード	25	ドローバー・パラメータ	
T		エディット	22
Transpose	31	コピー	22
W		ドローバー・レベル	16
Wheel Brake	31, 36	ハ	
Wheel Type	25	パーカッション	18, 26
ア		ヒ	
アイコン	16	ビブラート	20
エ		フ	
エクスプレッション・ペダル	10, 44	プログラム	
Exp Minimum Level	31	EXモード	13
Exp PdI Calibration	36	Normalモード	11
エディット	21	名前の変更	24
オ		プログラムの構成	17
オーバー・ドライブ	20	ボイスネーム・リスト	42
コ		フロント・パネル	6
コーラス	20	ホ	
シ		ボイスネーム・リスト	42
ショートカット	16	保存(ライト)	20
初期化	17, 35	モ	
ス		モード	5
スプリット	14, 28	ラ	
スワップ	23, 35	ライト	20
		リ	
		リア・パネル	9
		リバーブ	20, 27
		ロ	
		ロータリー・スピーカー	19, 27

アフターサービス

保証書

本製品には、保証書が添付されています。
お買い求めの際に、販売店が所定事項を記入いたしますので、「お買い上げ日」、「販売店」等の記入をご確認ください。記入がないものは無効となります。
なお、保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

保証期間

お買い上げいただいた日より一年間です。

保証期間中の修理

保証規定に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

本製品と共に保証書を必ずご持参の上、修理を依頼してください。

保証期間経過後の修理

修理することによって性能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料で修理させていただきます。ただし、補修用性能部品(電子回路などのように機能維持のために必要な部品)の入手が困難な場合は、修理をお受けすることができませんのでご了承ください。また、外装部品(パネルなど)の修理、交換は、類似の代替品を使用することもありますので、あらかじめお買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターへお問い合わせください。

修理を依頼される前に

故障かな?とお思いになったら、まず取扱説明書をよくお読みのうえ、もう一度ご確認ください。
それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターへお問い合わせください。

修理時のお願い

修理に出す際は、輸送時の損傷等を防ぐため、ご購入されたときの箱と梱包材をご使用ください。

ご質問、ご相談について

アフターサービスについてのご質問、ご相談は、お買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターへお問い合わせください。

商品のお取り扱いに関するご質問、ご相談は、お客様相談窓口へお問い合わせください。

WARNING!

この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です

This Product is only suitable for sale in Japan.
Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

株式会社コルグ

お客様相談窓口 TEL 03(3799)9086

サービス・センター: 〒143-0001 東京都大田区東海5-4-1

明正大井5号営業所コルグ物流センター内

TEL 03(3799)9085

名古屋営業所: 〒466-0825 名古屋市昭和区八事本町100-51

TEL 052(832)1419

大阪営業所: 〒531-0072 大阪市北区豊崎3-2-1 淀川5番館7F

TEL 06(6374)0691

福岡営業所: 〒810-0012 福岡市中央区白金1-3-25 第2池田ビル1F

TEL 092(531)0166